

構造関係共通事項

1 総則

1.1 適用範囲

- (1) 構造関係共通事項は、総則、構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図、耐震改修標準図、木造標準図）から構成される。
- (2) 構造関係共通図（配筋標準図）は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
- (3) 構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。

1.2 優先順位

- (1) 設計図書間で配筋方法等に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 構造図
 2. 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図、耐震改修標準図、木造標準図）

1.3 用語の定義

- (1) 構造図とは、建築構造図のうち構造関係共通事項以外の図面をいう。
- (2) 異形鉄筋の径（本文、図、表において「D、d」で示す）は、呼び名に用いた数値とする。
- (3) 長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。

1.4 記号等

図面で使用する記号等は、表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。

表1.1 異形鉄筋の断面表示記号

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	∅	●	○	◎	⊗	⊙

表1.2 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S*	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
D0	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（CB壁）		ポーリング位置
	梁・スラブの上がり下がり範囲	(±)	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁の種別 片持ちスラブを受け、かつ耐力壁の種別 土圧を受け、かつ耐力壁の種別	W○○ KW○○	一般壁の種別

表1.3 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築																

表1.4 スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

表1.5 高力ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）		●	◆	◆	◆	◆
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F3T相当）				+	+	+

表1.6 普通ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト		○	◇	◇	◆	◆

表1.7 溶接継手及び溶接面の分類記号

分類	記号
溶接継手	完全溶込み溶接
	突合わせ継手
	T型継手
	かど継手
溶接面	隅肉溶接
	部分溶込み溶接
	重ねアーク溶接（フレア溶接）
	片面溶接
溶接面	片面溶接
	両面溶接

表1.8 溶接の補助記号

区分	分	補助記号
現場溶接	現場溶接	▲
	全周溶接	○
	全周現場溶接	⊙
	断続溶接の長さ及び間隔	L-P

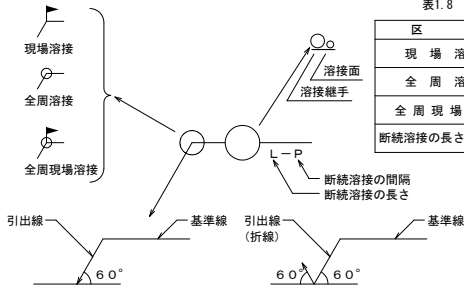


図1.1 溶接記号の記載例

構造関係共通図（配筋標準図）

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B、SD345	D19 ～ D38	SD390
		D16 以下	D19 ～ D38	D19 ～ D38
180°				
135°				
90°		3d 以上	4d 以上	5d 以上
135°及び90°（幅止め筋）				

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

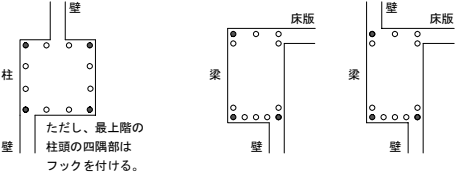


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

- (2) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- (3) 杭基礎のベース筋
- (4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

- (1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (2) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L ₁ （フックなし）	L _{1h} （フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- (注) 1. L₁、L_{1h}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合のL_{1h}は、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

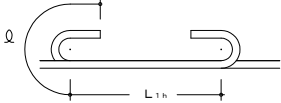
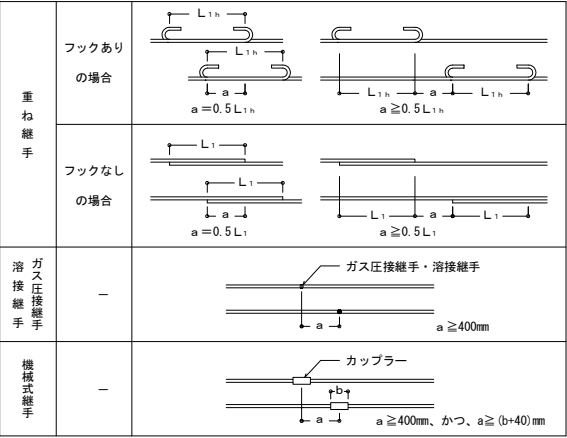


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量骨材を使用する場合は50d以上）と表3.1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。
- (4) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。
- ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置



(b) 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ			
		L ₁	L ₂	L _{1h}		L _{2h}	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	30d	35d	30d
	21	40d	35d	30d	25d	30d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d	25d	20d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d	25d	20d
SD345	18	50d	40d	35d	30d	35d	30d
	21	45d	35d	30d	25d	30d	25d
	24, 27	40d	35d	30d	25d	25d	20d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d	25d	20d
SD390	21	50d	40d	35d	30d	35d	30d
	24, 27	45d	40d	35d	30d	35d	30d
	30, 33, 36	40d	35d	30d	25d	30d	25d

- (注) 1. L₁、L_{1h}：2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L₂、L_{2h}：割製破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L_a：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。なお、()は片持ち小梁及び片持ちスラブの場合を示す。
4. L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

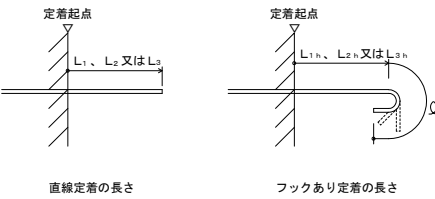


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- (2) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i)、(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。
- (i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
- (ii) 余長は8d以上
- (iii) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
- ※ 梁主筋の柱内定着長さについては、40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

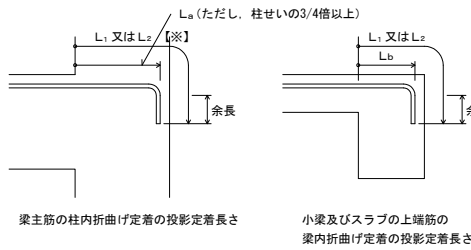


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- (注) 1. L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- (3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
- なお、L₂及びL₃は表3.3の(注)による。

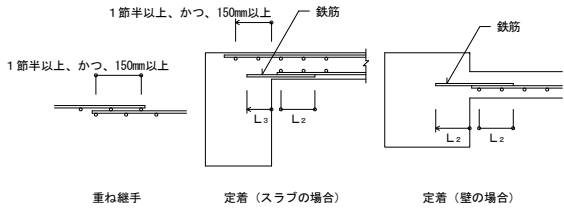


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- (4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

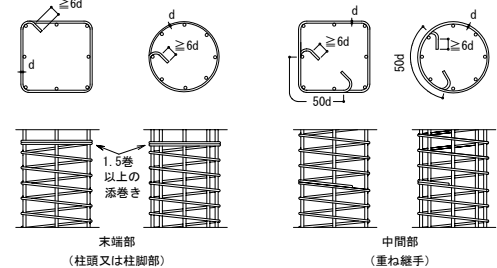


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。

ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別			最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20
		仕上げなし	30
	柱、梁、耐力壁	屋内	30
		仕上げあり	30
		仕上げなし	30
	屋外	仕上げなし	30
土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ		40
	柱、梁、スラブ、壁		* 40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		* 60
	煙突等高温を受ける部分		60

- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

- (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- (d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

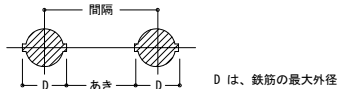


図4.1 鉄筋相互のあき

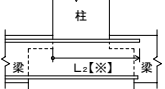
- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

5.1 基礎梁

(a) 一般事項

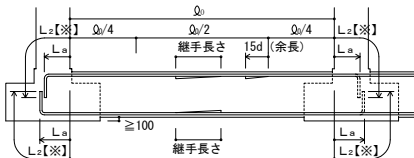
- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
- (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b) (4)による。



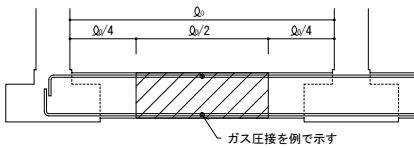
※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- (b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



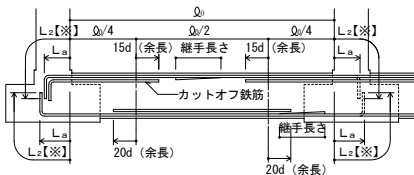
- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）
- ※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。



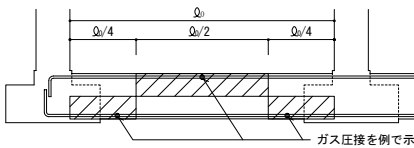
：継手の好ましい位置

図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）

- (c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）
- ※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

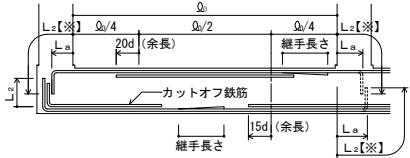


：継手の好ましい位置

図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）

(一財) クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-01
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場土木施設建設工事	
構造関係共通事項（その1）	
縮尺	—

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。
(耐圧スラブがつく場合を含む)



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）
※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

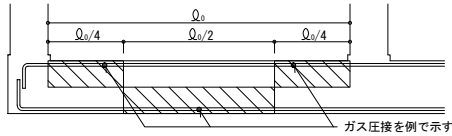


図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）

(注) カットオフ鉄筋：スパン途中でカットオフされる鉄筋を示す。

5.2 基礎梁のあばら筋等

- (a) 一般事項
(1) あばら筋の径および間隔は、設計図による。
(2) あばら筋組立の形及びフックは7.2(b)、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7.2(c)による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

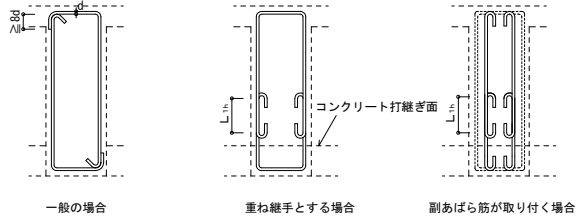


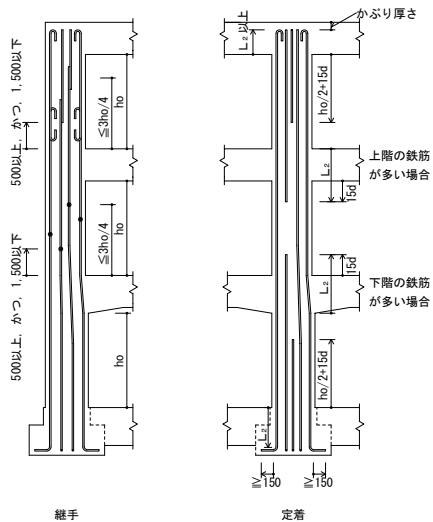
図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

(b) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。

(c) あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

6.1 柱

- (a) 一般事項
(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。
(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。
ただし、柱頭定着長さLsが確保できない場合は、設計図による。



- (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、表3.2「隣り合う継手の位置」による。
3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

- (b) 柱打増し部
(1) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
(2) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

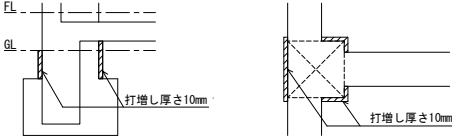
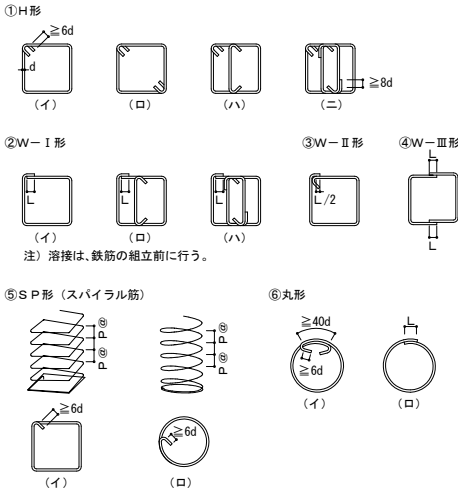


図6.2 柱打増し部

6.2 帯筋

(a) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。

- (b) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は設計図による。
(1) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(2) 溶接する場合の溶接長さLは、両面重ねアーク溶接の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d以上とする。
(3) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。

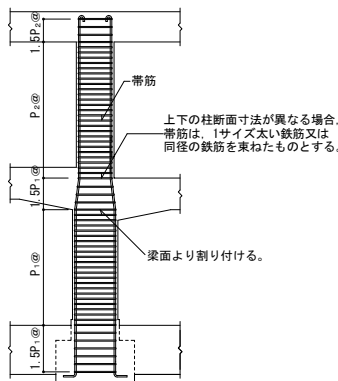


(注) ③W-II形、④W-III形は耐震改修工事のみ

図6.3 帯筋組立の形

(c) フック及び継手の位置は交互とする。

(d) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。



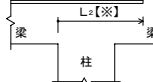
- (注) 1. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@または1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
2. 図中のP1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

- (a) 一般事項
(1) 梁の上がり下りはFLを基準とした寸法値とする。
(2) 地中梁下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は設計図による。
(3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。

- (b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
(1) 継手中心位置は、次による。
上端筋：中央 $Q/2$ 以内
下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、 $Q/4$ を加えた範囲以内
(2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
(3) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。



※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図7.1 梁主筋の梁内定着

(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

なお、定着の方法は3(b)(2)による。

上端筋：曲げ降ろす

下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。

下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

(5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。

(6) 段違い梁は、図7.2による。

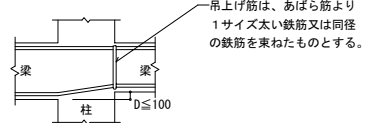
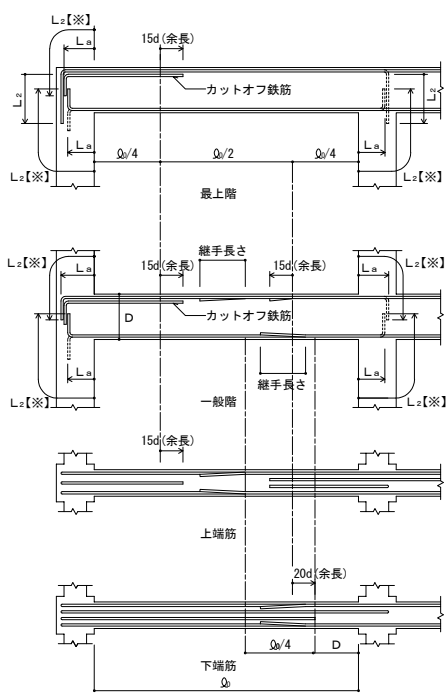


図7.2 段違い梁

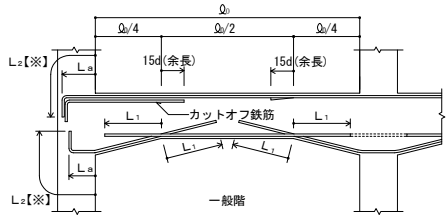
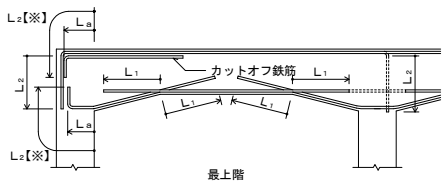
(c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手で、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）
※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手で、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、=====のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。
5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）
※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

- (a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。
(2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。
(3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

- (b) あばら筋組立の形及びフックの位置
(1) 形は、図7.5.a (イ) とする。
ただし、L形梁の場合は (ロ) または (ハ)、T形梁の場合は (ロ) ~ (ニ) とすることができる。

- (2) フックの位置
i. (イ) の場合は交互とする。
ii. (ロ) の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
iii. (ハ) の場合は床版の付く側を 90° 折曲げとする。

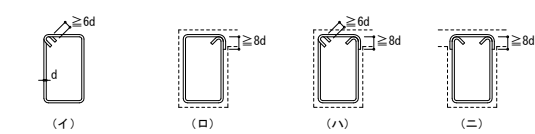


図7.5.a あばら筋組立の形

- (c) 副あばら筋組立の形及びフックの位置
(1) 形は、図7.5.b (ホ) または (ヘ) とする。
ただし、L形梁またはT形梁の場合は (ト) とすることができる。

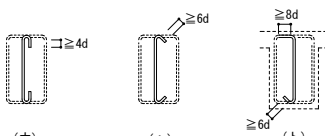
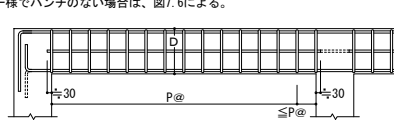


図7.5.b 副あばら筋組立の形

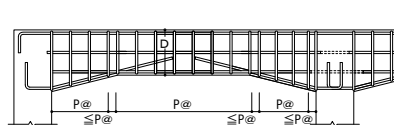
(d) あばら筋の割付け
(1) 間隔が一様でハンチのない場合は、図7.6による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け（その1）

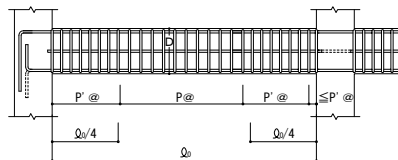
(2) 間隔が一様でハンチのある場合は、図7.7による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。

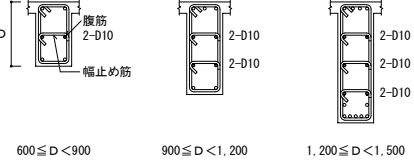


- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@、P' @は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け（その3）

(a) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁は、図7.9による。



600 ≤ D < 900 900 ≤ D < 1,200 1,200 ≤ D < 1,500

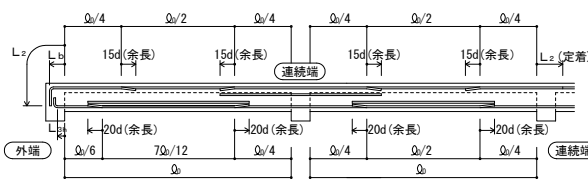
1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

図7.9 腹筋および幅止め筋

7.3 小梁

(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長

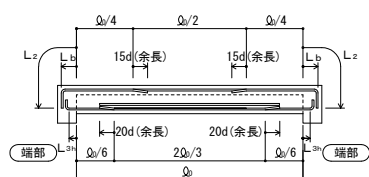
(1) 連続小梁の場合は、図7.10による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(b) 単独小梁の場合は、図7.11による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

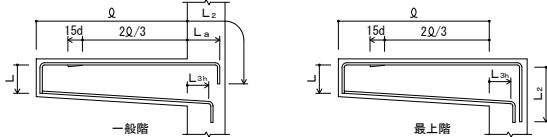
図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

(c) あばら筋は、7.2による。

7.4 片持梁

(a) 片持梁主筋の定着及び余長

(1) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、余長位置を示す。
3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(一財) クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-02
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
構造関係共通事項（その2）	
縮 尺	—

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.2 二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも（全域）
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13、D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@

図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋（その1）

図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋（その2）

11.1 梁貫通孔

(a) 梁貫通孔は、次による。

(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。

(2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。

(3) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。

(4) 孔は、柱面から原則として、1.5D 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。

(5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。

(6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

(7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。

(8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋でき、かつ、設計図に特記された場合において、補強を省略することができる。

(9) 溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

(10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φ のリング筋を取り付ける。

なお、リング筋は、溶接金網に 4箇所以上溶接する。

(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

図11.2 補強筋の定着長さ

図11.3 他の開孔を設けない範囲

11.2 コンクリートブロック帳壁との取合い

(a) 控壁は、次による。

(1) 控壁の配置は、設計図による。

(2) 配筋は、図11.4による。

図11.4 控壁の配筋（水平、垂直とも）

(b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 パラベット

パラベットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

図11.6 パラベットの先端補強筋

12.1 擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12.1により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

図12.1 擁壁の鉄筋の定着長さ

13 土木部分と建築部分の取り扱い

12.1 壁縦筋の取り合い

(1) 土木工事において、1階伏図及び建築1階壁配筋図を参考に、地中壁又は梁を下図により差し筋をする。

(2) 差し筋の定着は土木工事の壁・梁筋の内側とする。

図12.1 擁壁の鉄筋の定着長さ

12.2 柱主筋の取り合い

(1) 土木最上部の柱主筋は1階建築部分の柱断面に応じ、下図の圧接位置まで伸ばすことを原則とする。

(2) 帯筋は、梁及び壁に取り合う部分は150@その他の部分は100@とする。径は1階柱の帯筋と同径とする。

図12.2 柱主筋の取り合い

12.3 柱主筋のかぶり厚の取扱い

(1) 柱主筋のかぶり厚さの違いによる台直しは、梁せいの内で行うことを原則とする。コンクリート打設後の鉄筋の位置修正が生じた場合は監督職員の承諾を得る。

図12.3 柱主筋のかぶり厚の取扱い

61

(一財)クリーンいわて事業団

八幡平市平館第2地割

令和2年度

公共関与型産業廃棄物最終処分場
土木施設建設工事

構造関係共通事項（その4）

縮 尺

S-04

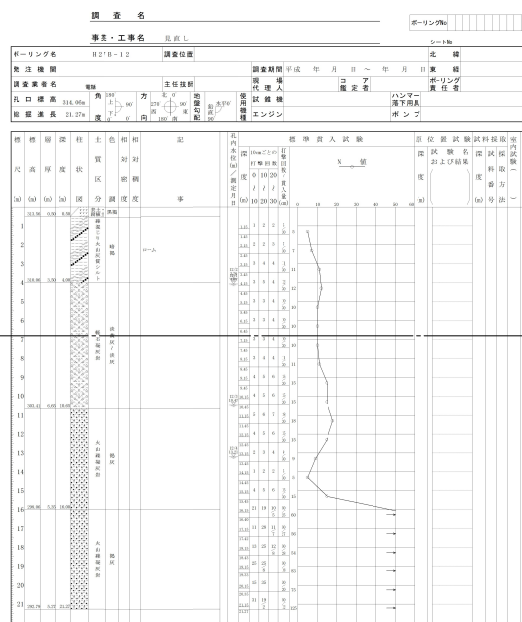
—

—

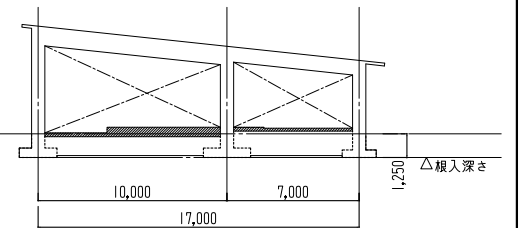
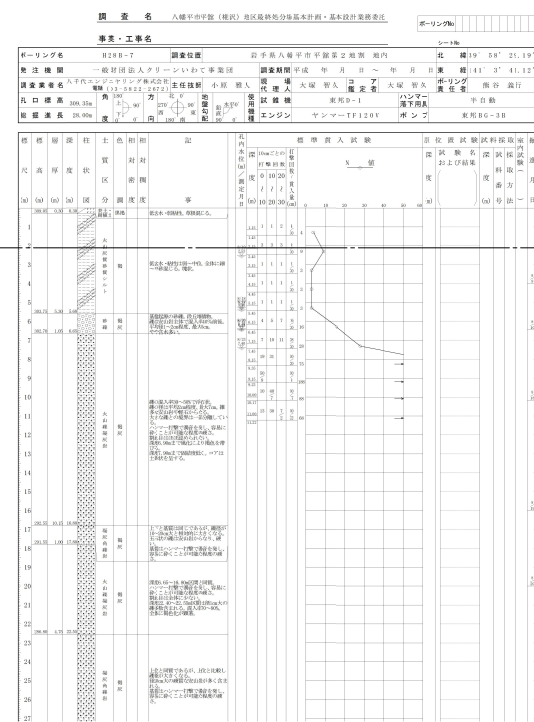
—

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

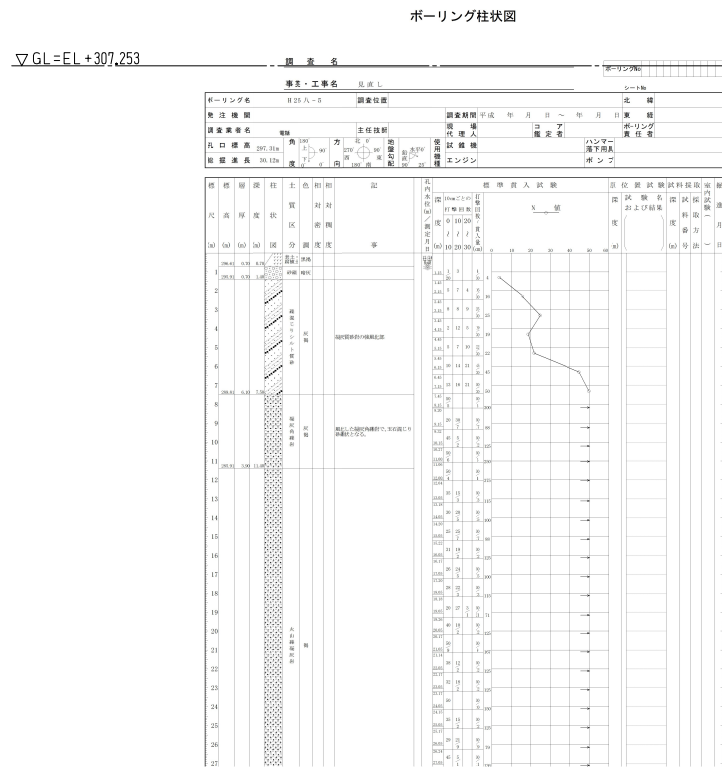


ボーリング柱状図

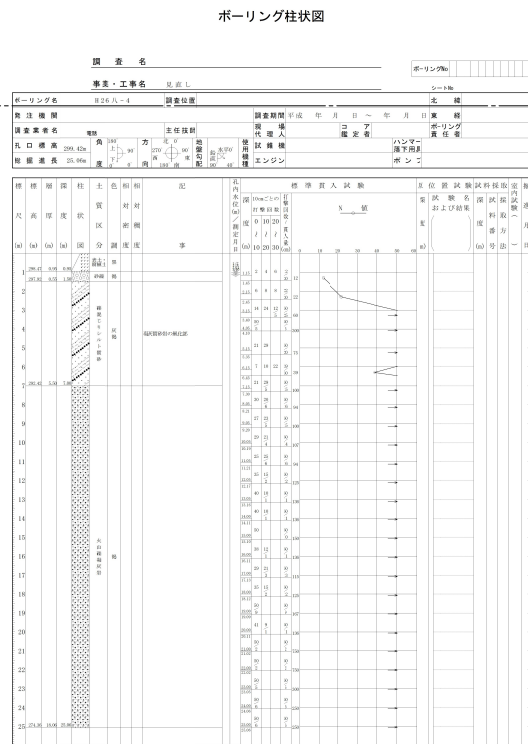


ボーリングNo. H27B-12

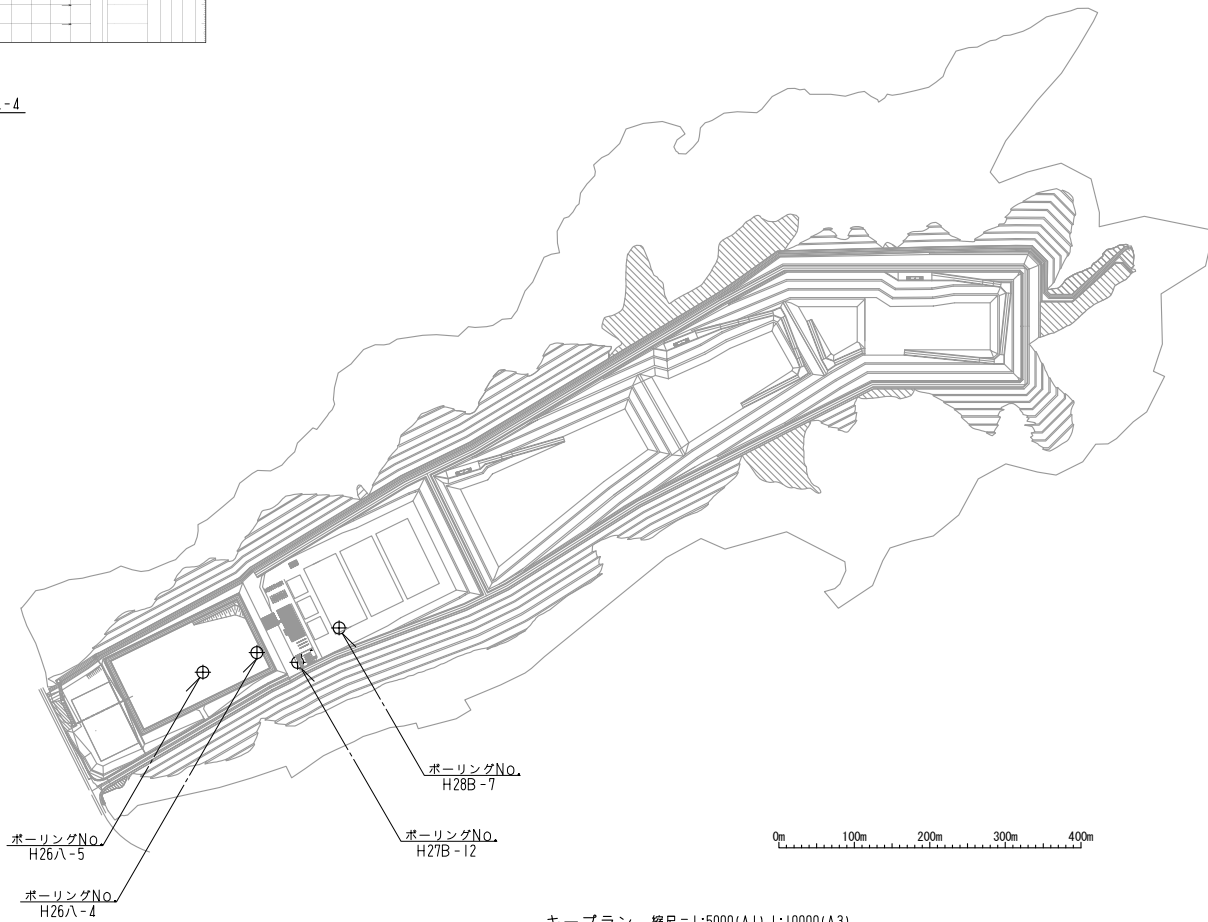
ボーリングNo. H28B-7



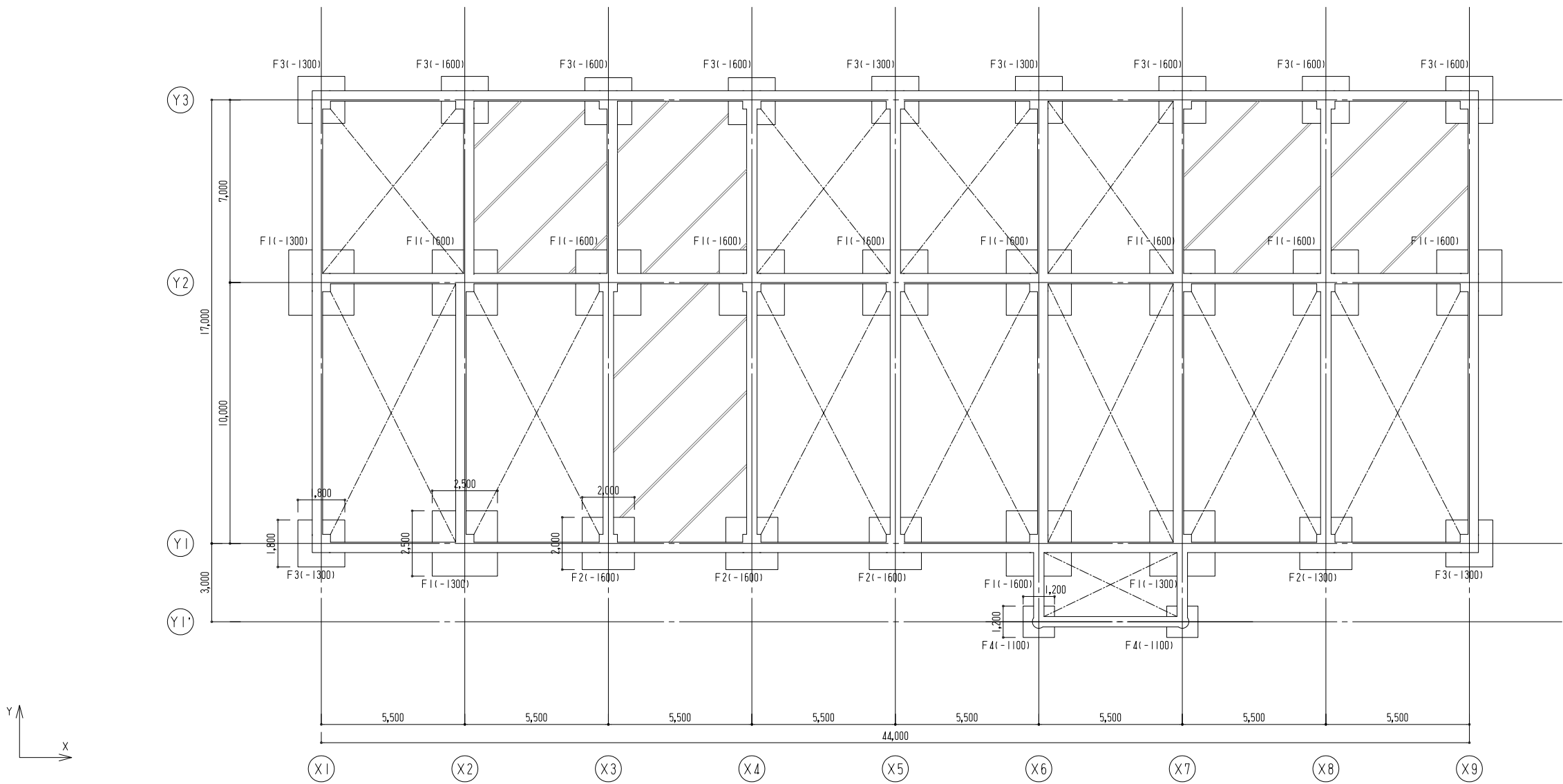
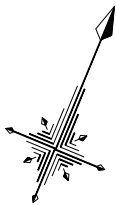
ボーリングNo. H26ハ-5



ボーリングNo. H26ハ-4

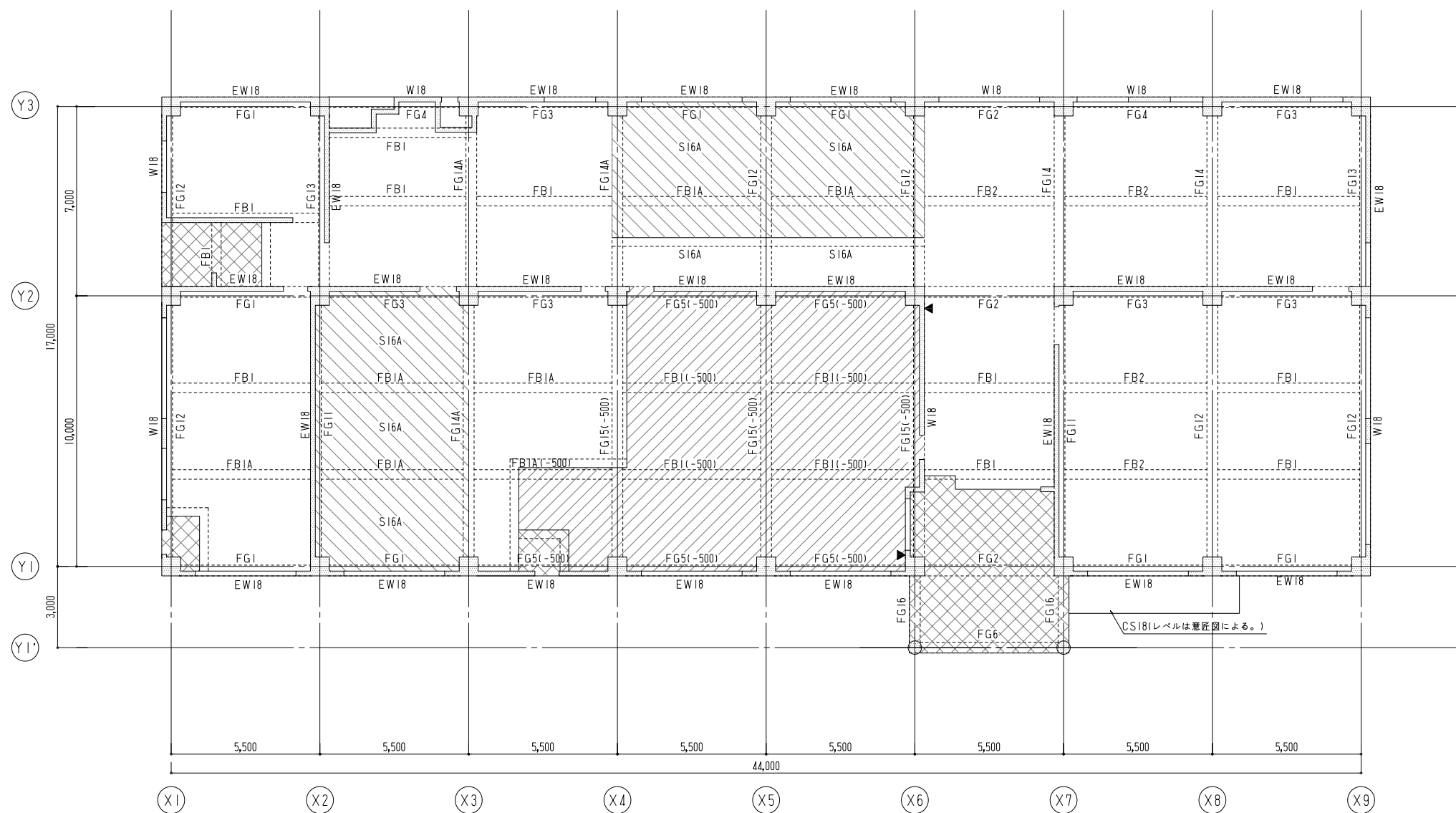
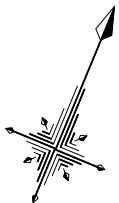


(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-05
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
ボーリング柱状図	
縮 尺	1:5000 (A1) 1:10000 (A3)



基礎伏図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 印は土間コンクリートを示す。天端高さはFL-1370
2. 印は埋め戻しを示す。
3. 長期地耐力: 300kN/m²

(一財) クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-06
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
管理棟 基礎伏図	
縮 尺	1:100 (A1) 1:200 (A3)



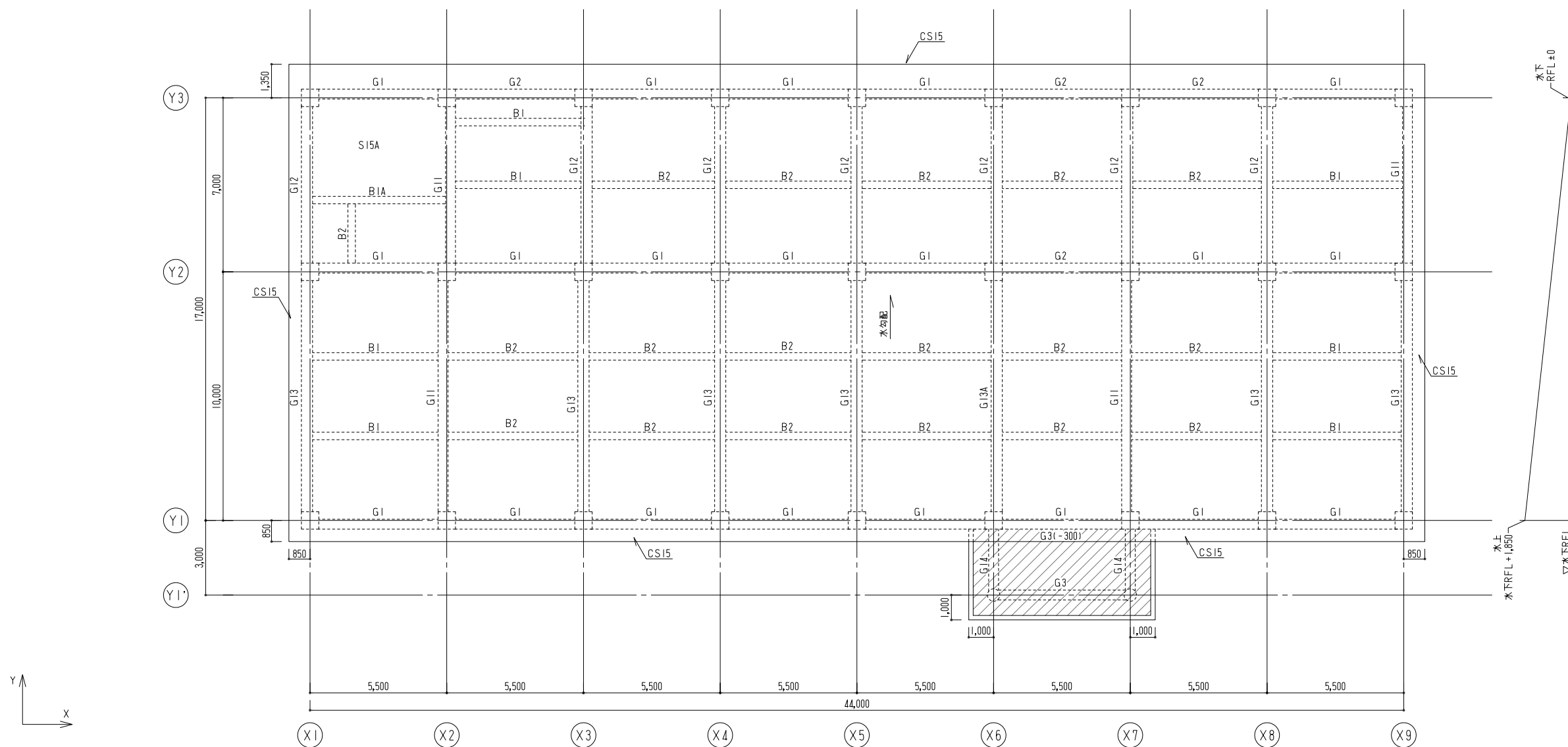
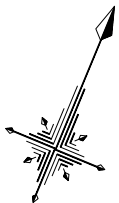
1階梁伏図 縮尺=1/100

注記) 特記なき限り下記による。

- 1. スラブ符号 S16
- 2. 壁符号 W15
- 3. ◀▶ はスリットを示す。
- 4. 梁天端はFL-200とする。その他は()内にFLからの梁天端高さを示す。
- 5. 床スラブ・梁天端は下記に示す。

記 号	梁上端	床スラブ上端
□ 印	FL-200	FL-10
▨ 印	FL-200	FL-50
▩ 印	FL-200	FL-100
▪ 印	FL-500	FL-300

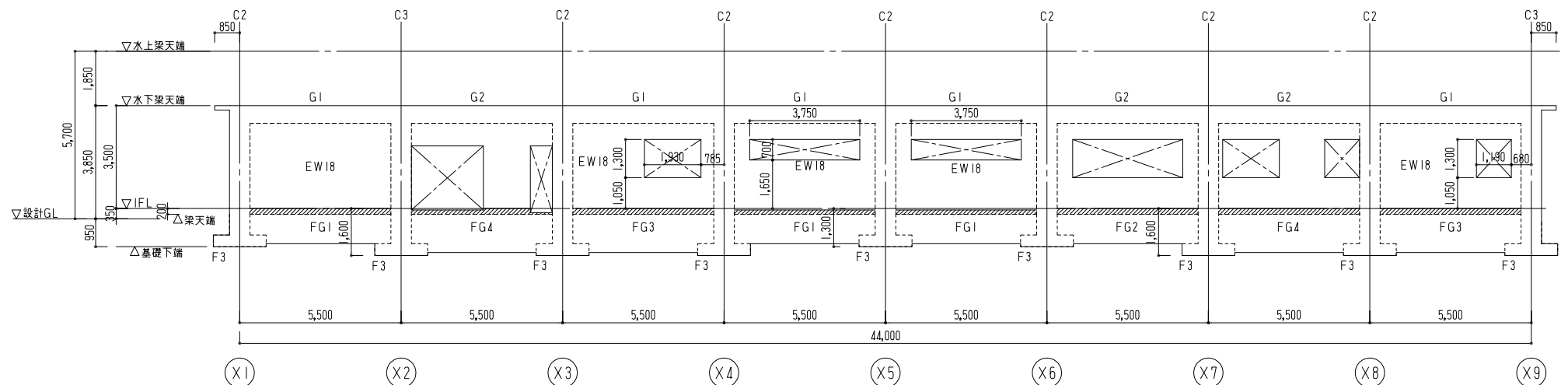
(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-07
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
管理棟 1階梁伏図	
縮 尺	1:100 (A1) 1:200 (A3)



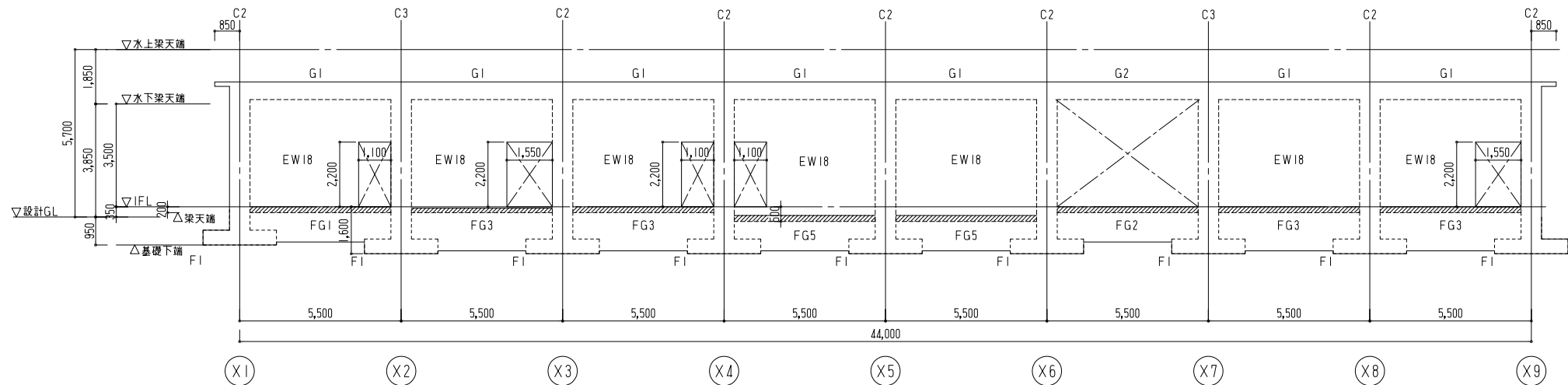
R階梁伏図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. スラブ符号 S15
2. 床スラブ・梁天端は下記に示す。

記号	梁上端	床スラブ上端
//// 印	水下RFL-300	水下RFL-300

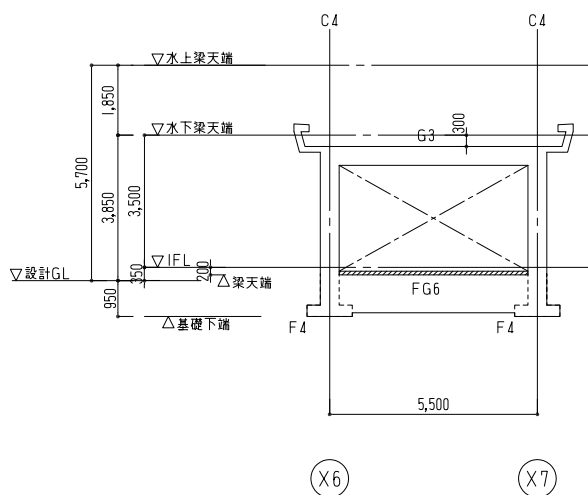
(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-08
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
管理棟 R階梁伏図	
縮尺	1:100 (A1) 1:200 (A3)



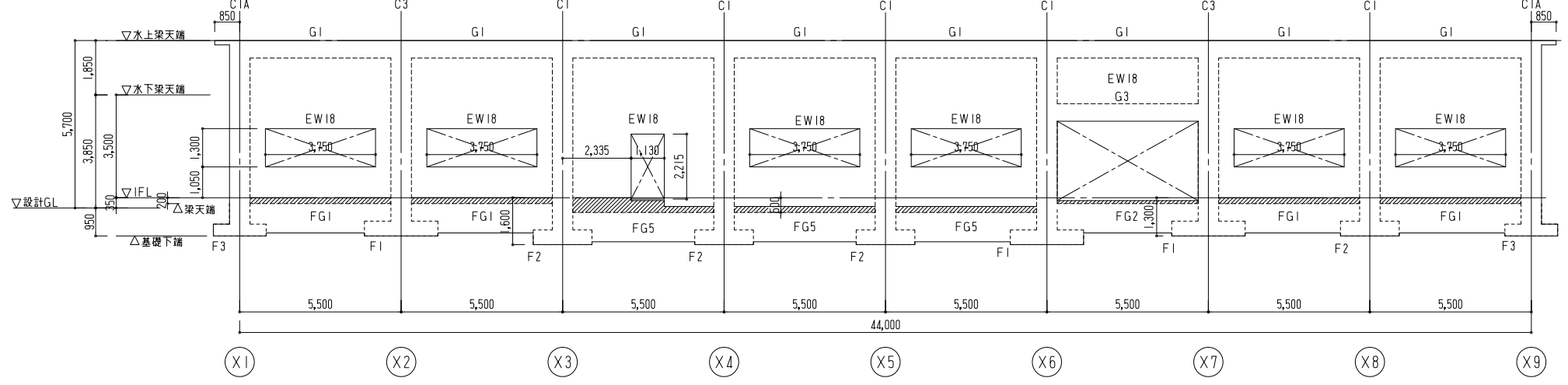
Y3 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W18
2. 印は梁フカシを示す。



Y2 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W18
2. 印は梁フカシを示す。

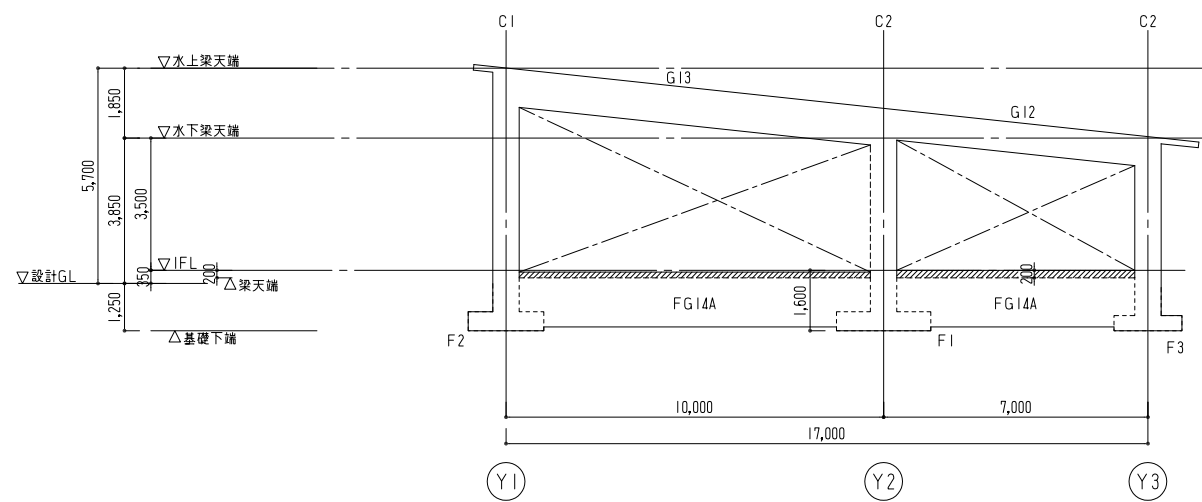


Y1 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 印は梁フカシを示す。

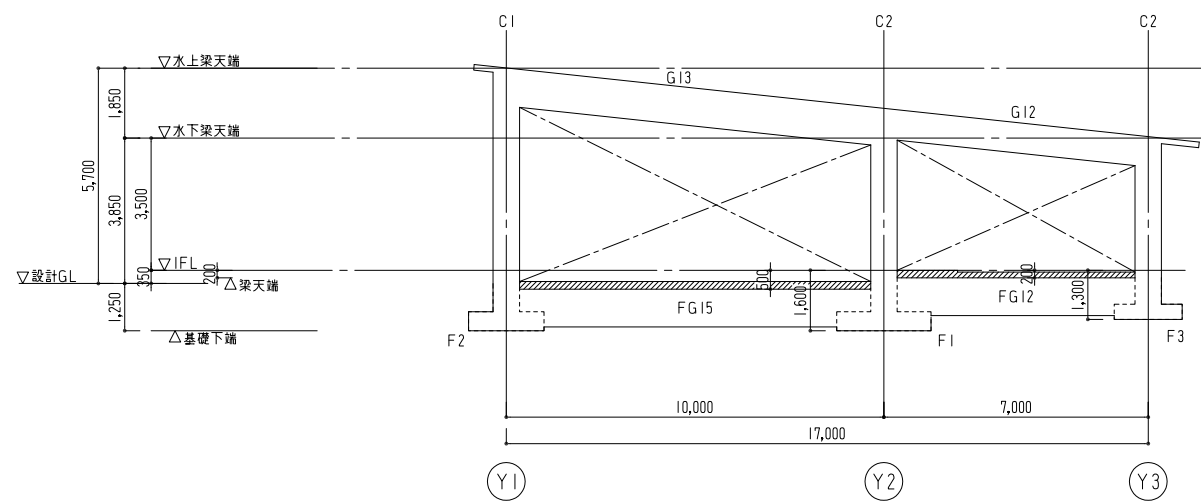


Y1 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W18
2. 印は梁フカシを示す。

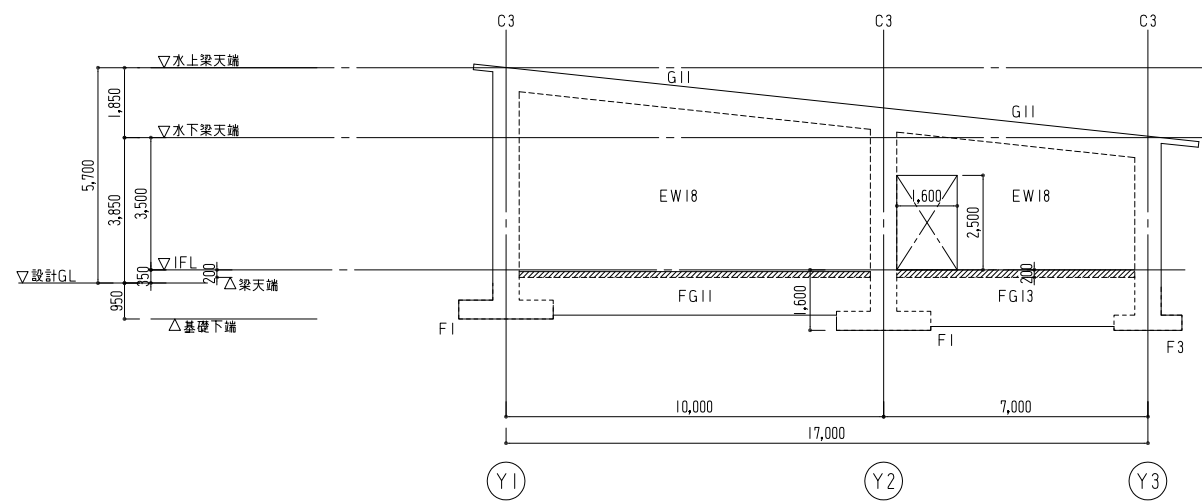
(一財) クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-09
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
管理棟 軸組図(1)	
縮 尺	1:100(A1) 1:200(A3)



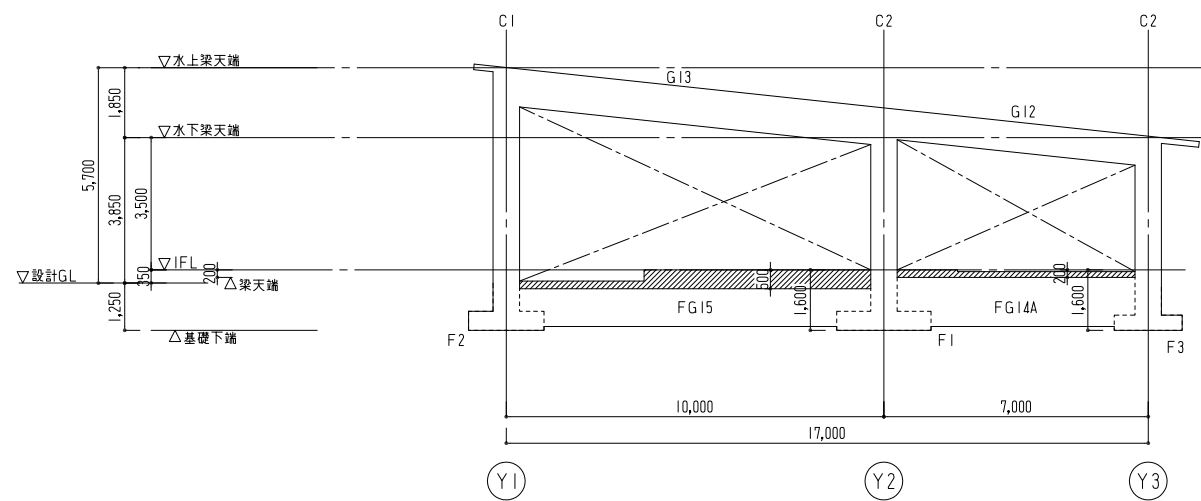
(X3) 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 印は梁フカシを示す。



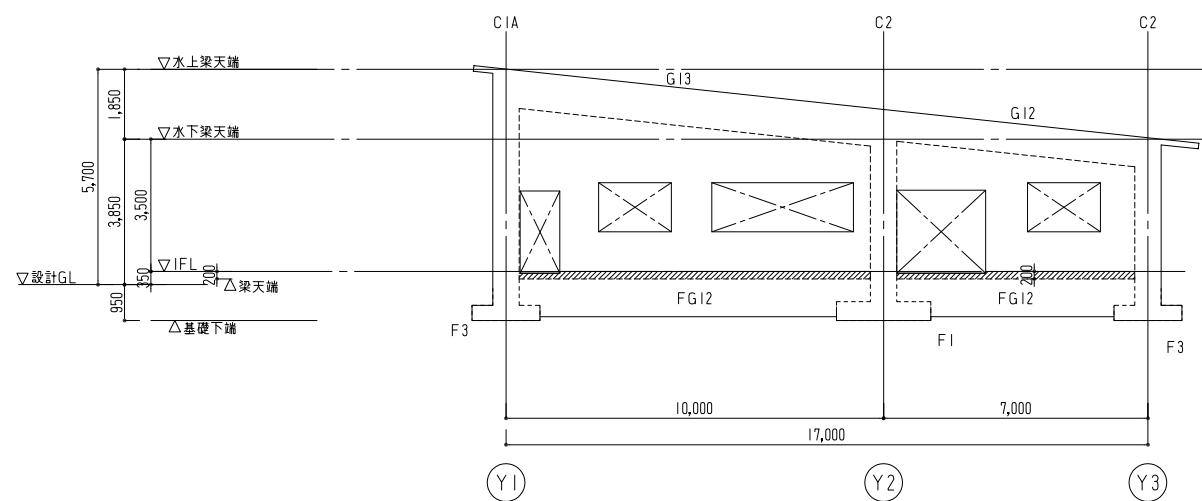
(X5) 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 印は梁フカシを示す。



(X2) 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 印は梁フカシを示す。

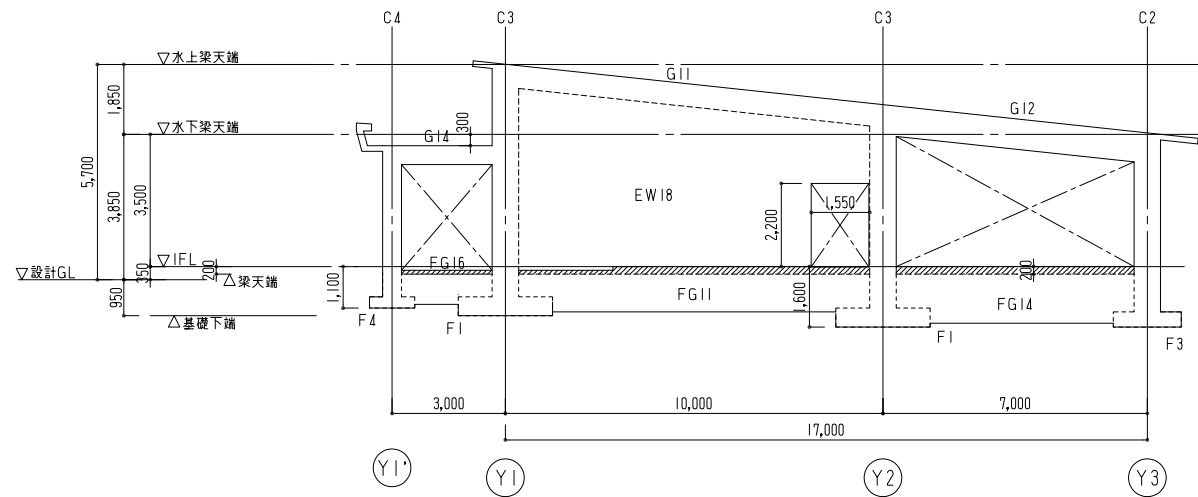


(X4) 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 印は梁フカシを示す。

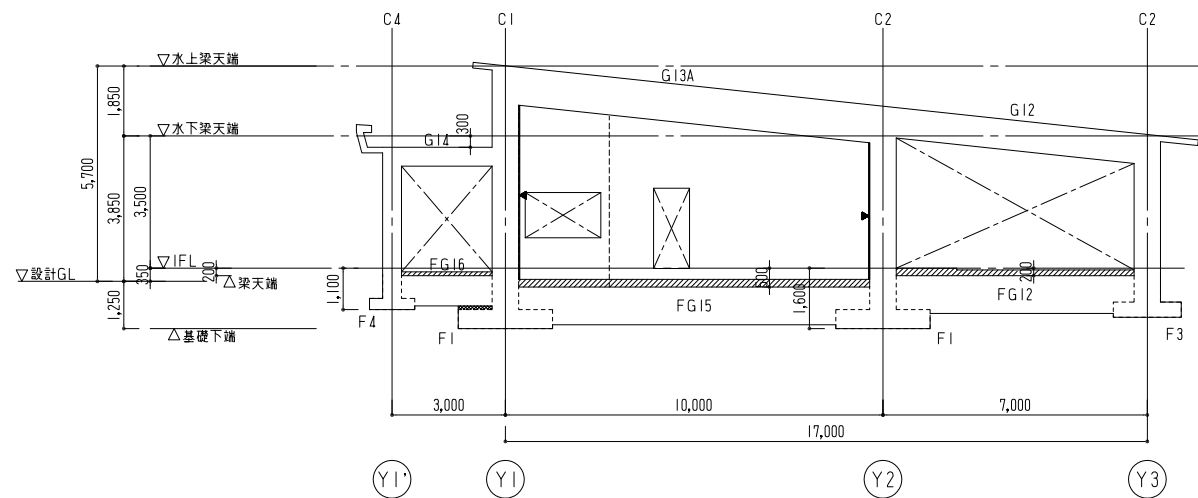


(X1) 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W18
2. 印は梁フカシを示す。

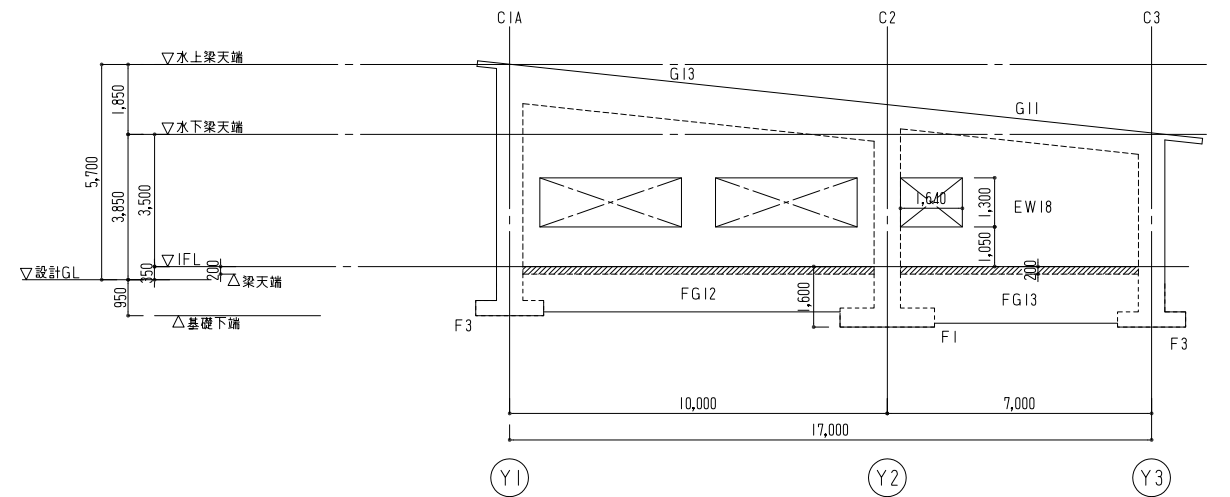
(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-10
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
管理棟 軸組図 (2)	
縮 尺	1:100 (A1) 1:200 (A3)



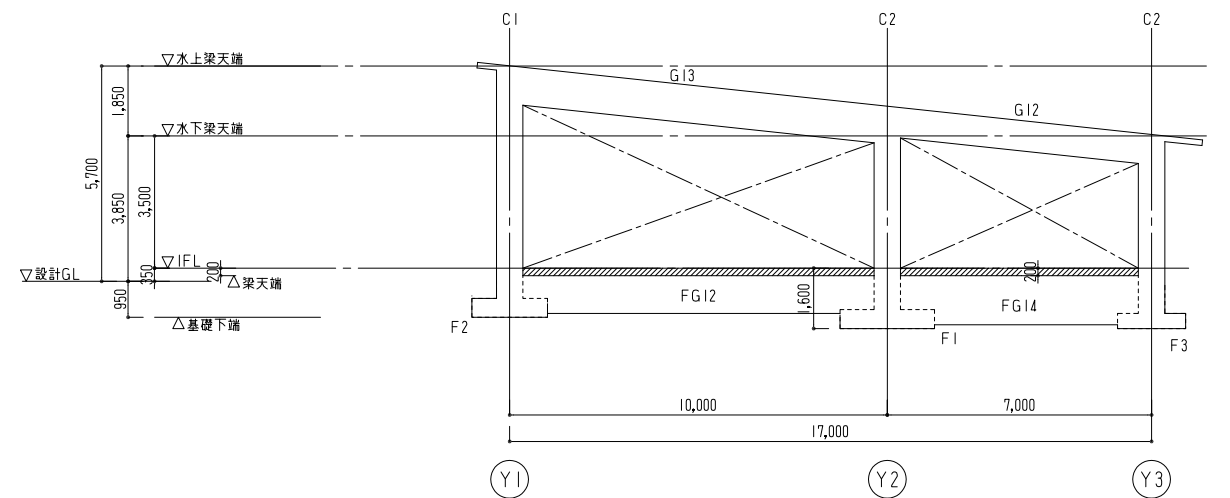
(X7) 通り軸組図 縮尺=1/100
 注記) 特記なき限り下記による。
 1. 印は梁フカシを示す。



(X6) 通り軸組図 縮尺=1/100
 注記) 特記なき限り下記による。
 1. 壁符号 W18
 2. 印は梁フカシを示す。
 3. はスリットを示す。



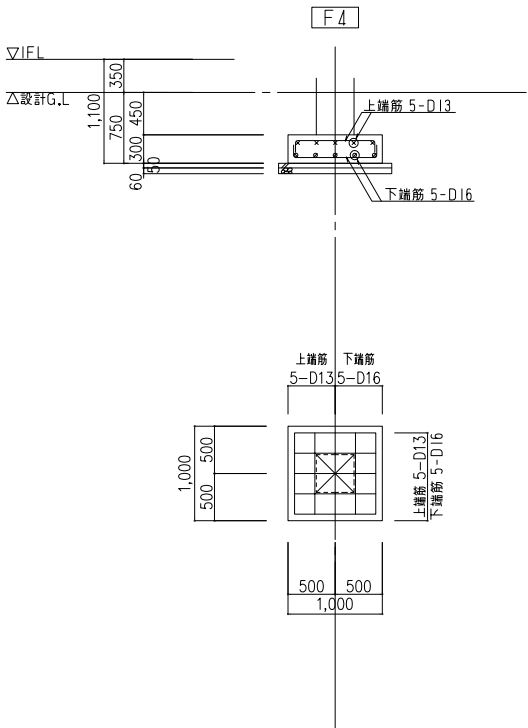
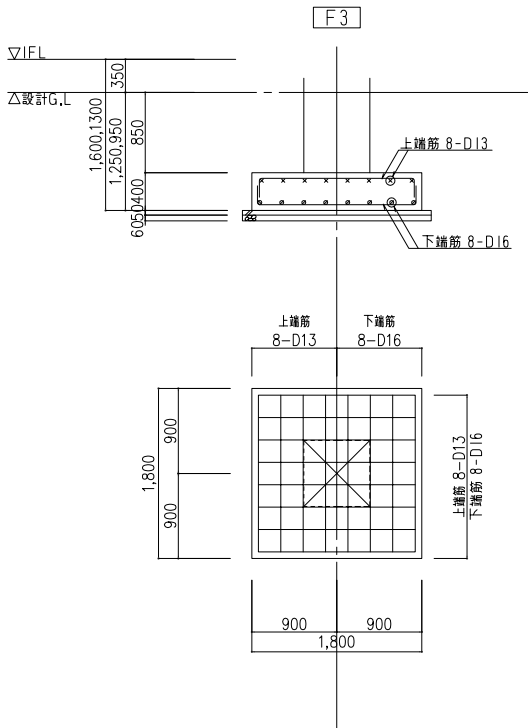
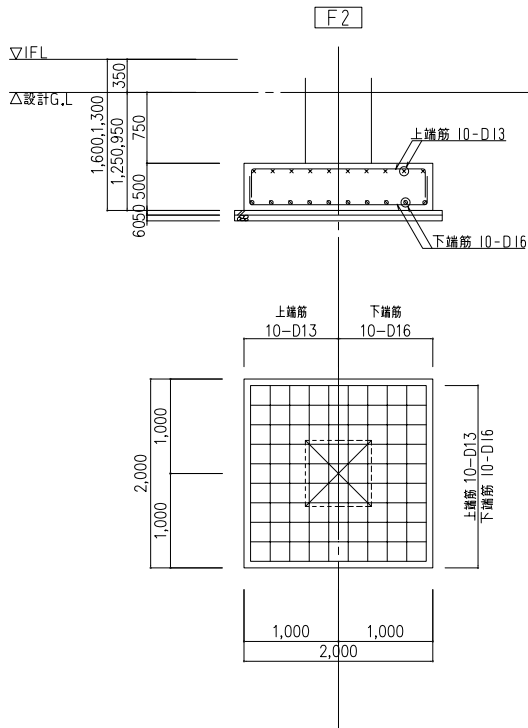
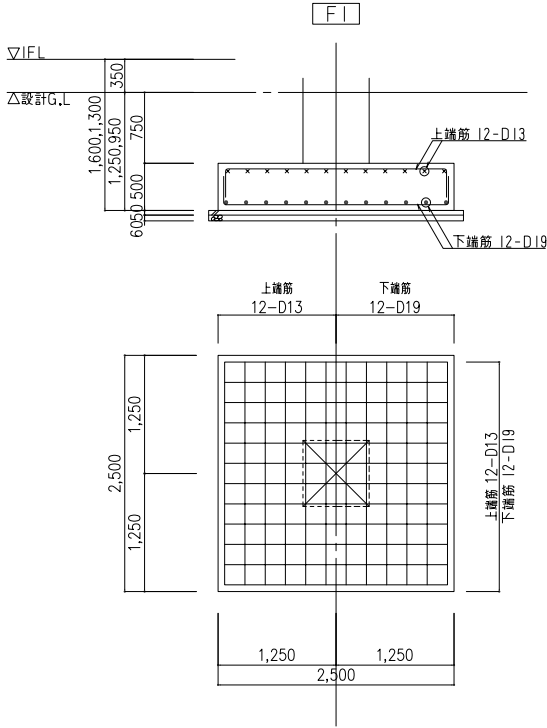
(X9) 通り軸組図 縮尺=1/100
 注記) 特記なき限り下記による。
 1. 壁符号 W18
 2. 印は梁フカシを示す。



(X8) 通り軸組図 縮尺=1/100
 注記) 特記なき限り下記による。
 1. 印は梁フカシを示す。

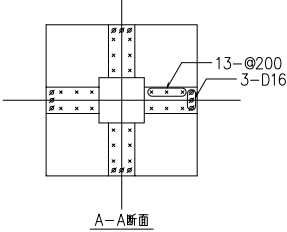
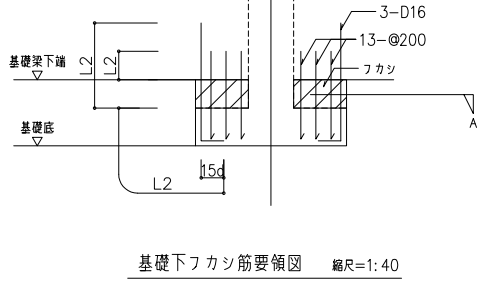
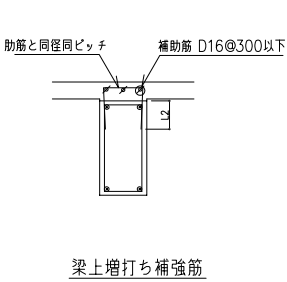
(一財) クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-11
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
管理棟 軸組図 (3)	
縮 尺	1:100 (A1) 1:200 (A3)

注記）特記なき限り下記による。
基礎断面リスト 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。



注記）特記なき限り下記による。
基礎梁断面表 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。

符 号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面						
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	3-D25
下端筋	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	3-D25
S.T.	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹 筋	4-D10	4-D10	6-D10	6-D10	4-D10	4-D10
備 考						



符 号	FG11	FG12		FG13	FG14	FG14A		FG15			FG16
位 置	全断面	Y2端	他端・中央	全断面	全断面	Y2端	他端・中央	Y1端	中央	Y2端	全断面
断 面											
上端筋	4-D25	6-D25	4-D25	5-D25	4-D25	8-D25	6-D25	4-D25	6-D25	8-D25	3-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	6-D25	8-D25	3-D25
S.T.	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200
腹 筋	4-D10	4-D10		6-D10	6-D10	6-D10		4-D10			2-D10
備 考											

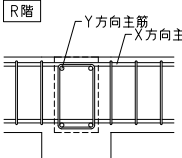
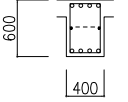
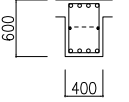
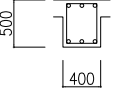
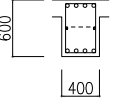
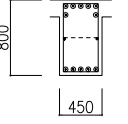
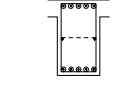
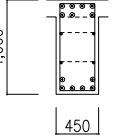
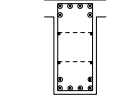
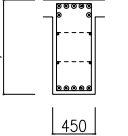
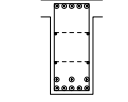
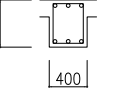
注記）特記なき限り下記による。
基礎小梁断面表 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。

符 号	FB1	FB1A	FB2
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
上端筋	3-D22	4-D22	3-D22
下端筋	3-D22	4-D22	3-D22
S.T.	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋	2-D10	2-D10	-
備 考			

(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-12
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
管理棟 基礎・基礎梁リスト	
縮 尺	1:40 (A1) 1:80 (A3)

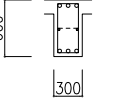
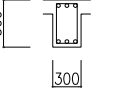
注記）特記なき限り下記による。
1. 材質は主筋：SD345, D13～D10:SD295Aとする。
2.

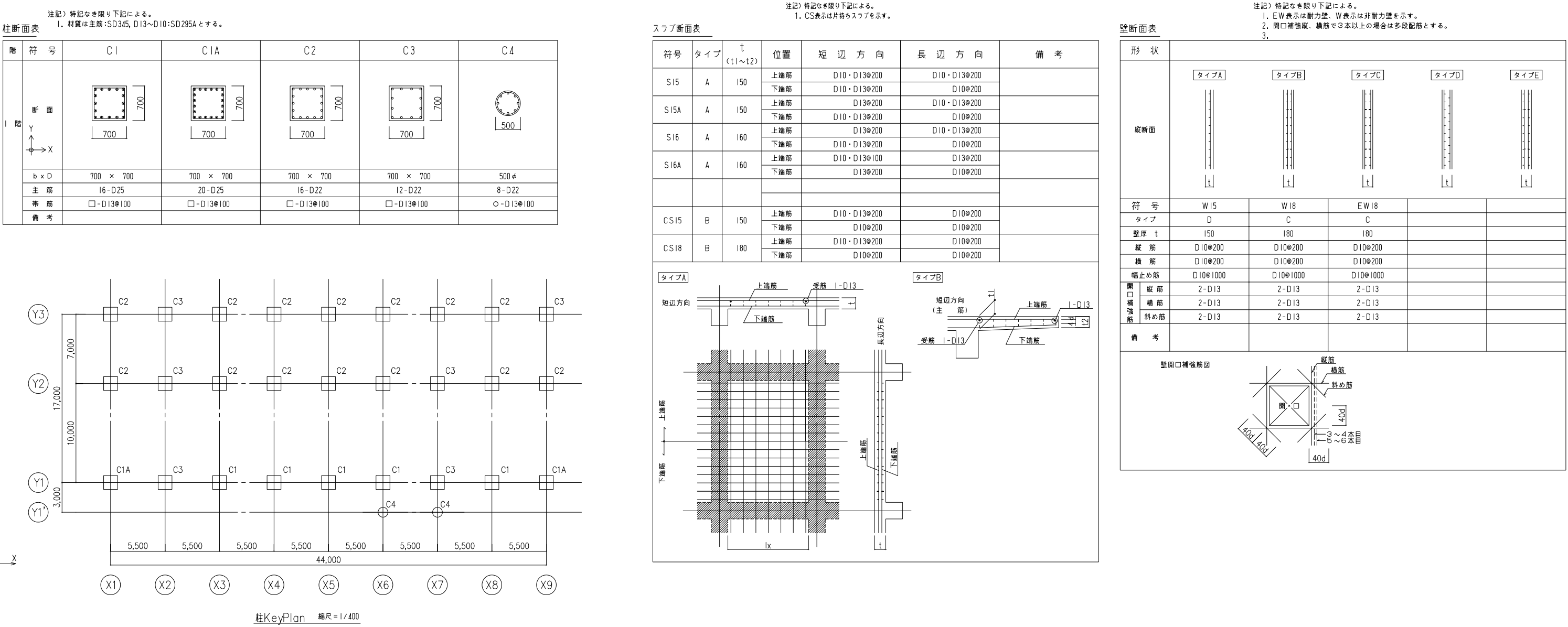
大梁断面表

階	符 号	G1	G2	G3	G11	G12		G13		G13A		G14	<div><div>R階</div><div></div><div>注記）特記なき限り下記による。 1. 材質は主筋：SD345, D13～D10:SD295Aとする。 2. 中止め筋D10@1,000以内とする。 3. 大梁の定着長は40dとする。 4. 大梁主筋配筋方法は下図による。</div></div>
	位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	Y2端	他端・中央	端部	中央	Y2端	Y1端・中央	全断面	
R階	断 面												
	上端筋	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	7-D25	5-D25	7-D25	6-D25	7-D25	5-D25	3-D22	
	下端筋	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	5-D25	5-D25	6-D25	6-D25	5-D25	8-D25	3-D22	
	ST.	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	
	腹 筋	2-D10	2-D10	-	2-D10	2-D10		4-D10		4-D10		-	
	備 考												

注記）特記なき限り下記による。
1. 材質は主筋：SD345, D13～D10:SD295Aとする。
2.

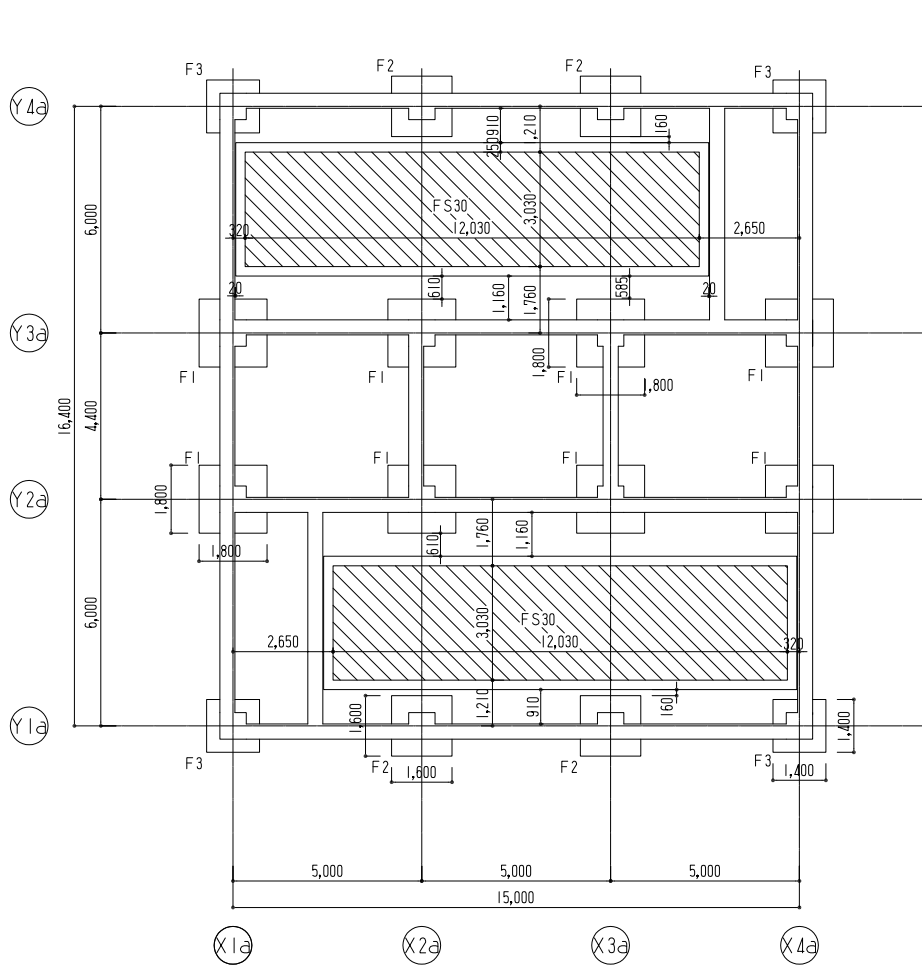
小梁断面表 縮尺=1:40

符 号	B1,B1A	B2
位 置	全断面	全断面
断 面		
上端筋	3-D22	3-D22
下端筋	3-D22 (4-D22)	3-D22
ST.	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋	2-D10	-
備 考	() 内はB1A	



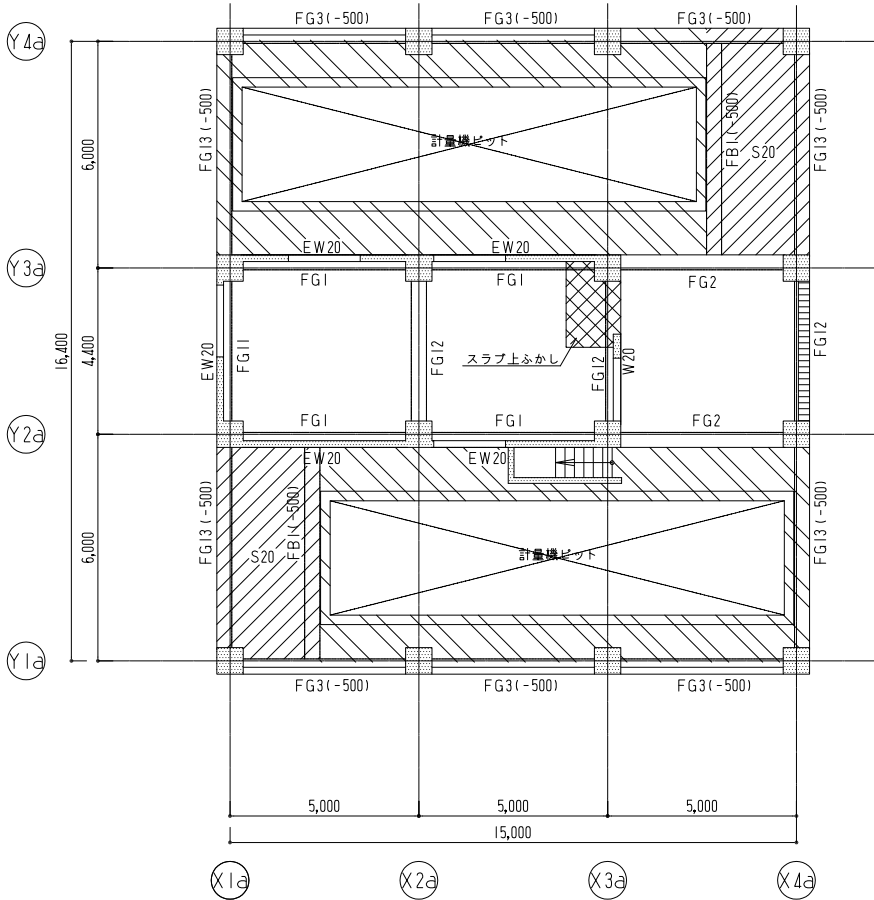
70

(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-13
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
管理棟 柱・梁・スラブ・壁リスト	
縮 尺	1:40 (A1) 1:80 (A3)



基礎伏図 縮尺=1/100

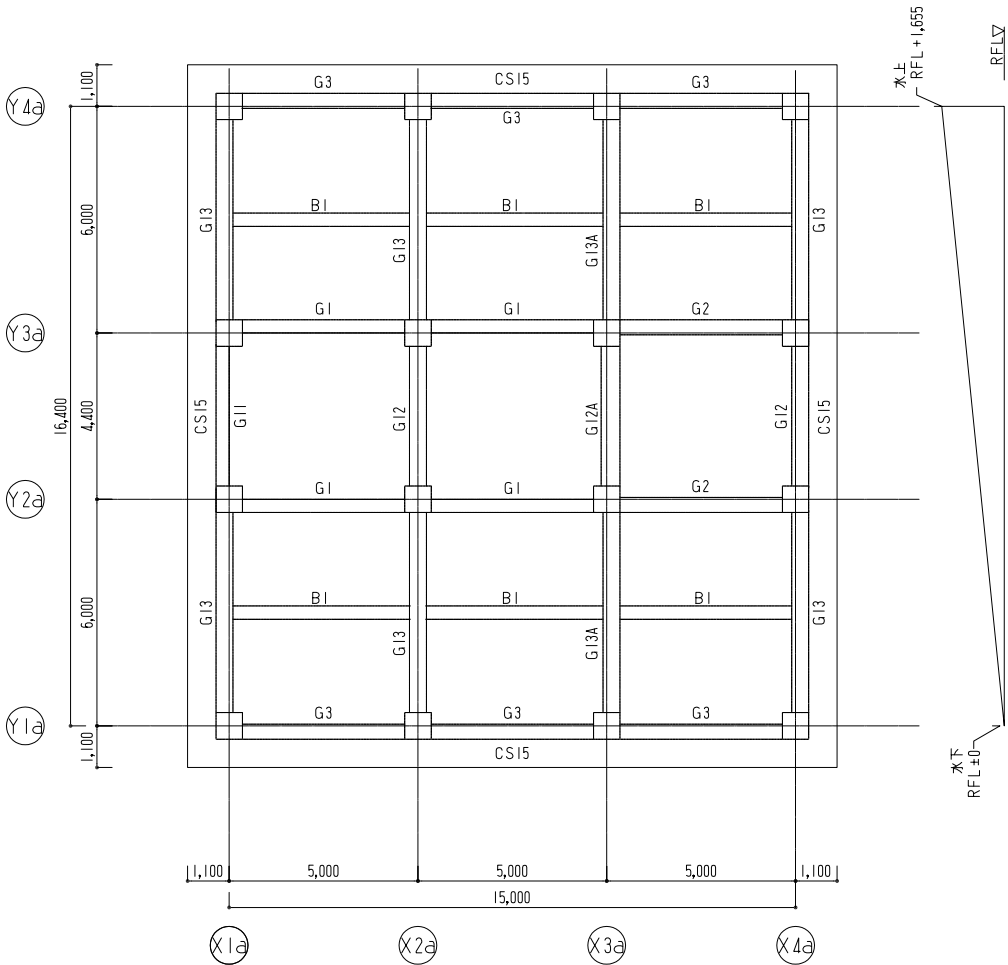
注記) 特記なき限り下記による。
1. 印は計量器ピットを示す。天端高さはGL-1300
2. 長期地耐力: 300kN/㎡



1階梁伏図 縮尺=1/100

注記) 特記なき限り下記による。
1. 印は土間コンクリートを示す。天端高さはFL-300
2. 壁符号 W16
3. スラブ符号 S16
4. 梁天端はFL-300とする。
5. 床スラブ・梁天端は下記に示す。

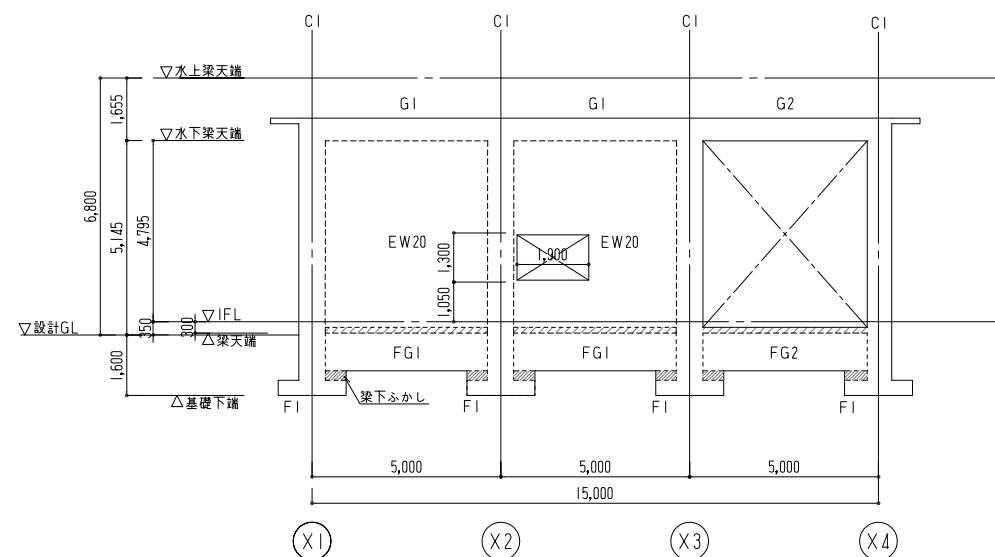
記 号	床スラブ上端
印	FL-50
印	FL-150
印	FL-250
印	FL-300



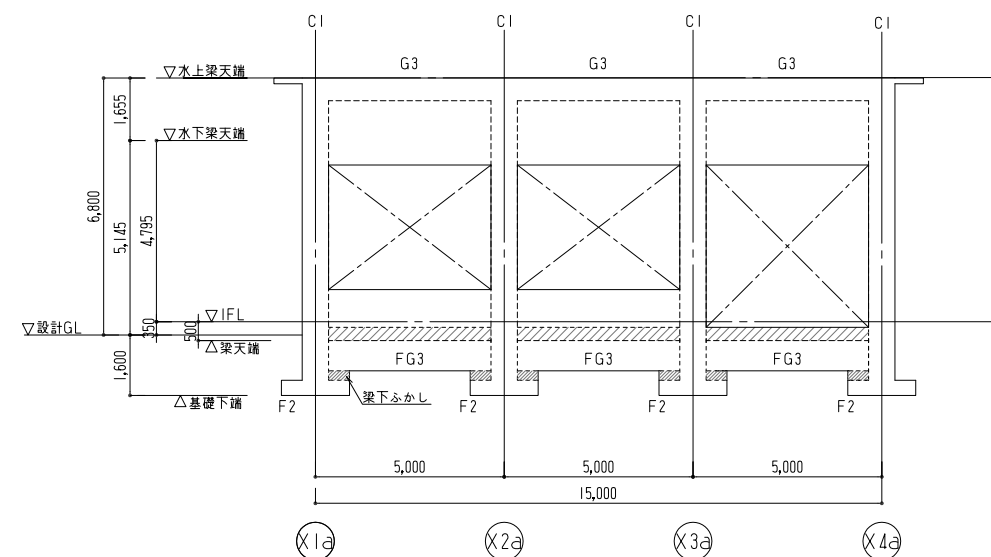
R階梁伏図 縮尺=1/100

注記) 特記なき限り下記による。
1. スラブ符号 S15
2.

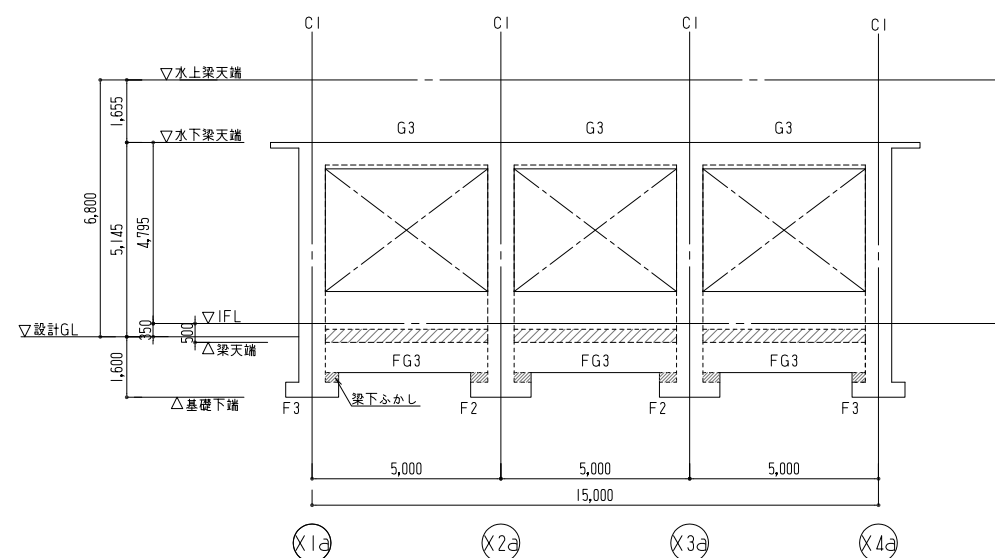
(一財) クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-15
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
受入計量設備 基礎伏図・1階梁伏図・R階梁伏図	
縮 尺	1:100 (A1)
	1:200 (A3)



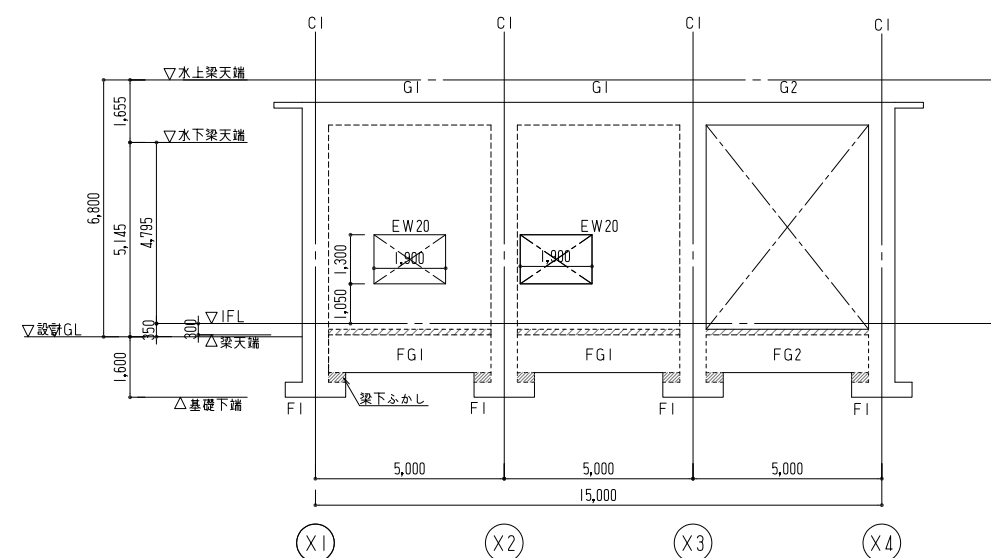
Y2a 通り軸組図 縮尺=1/100



Y4a 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W16

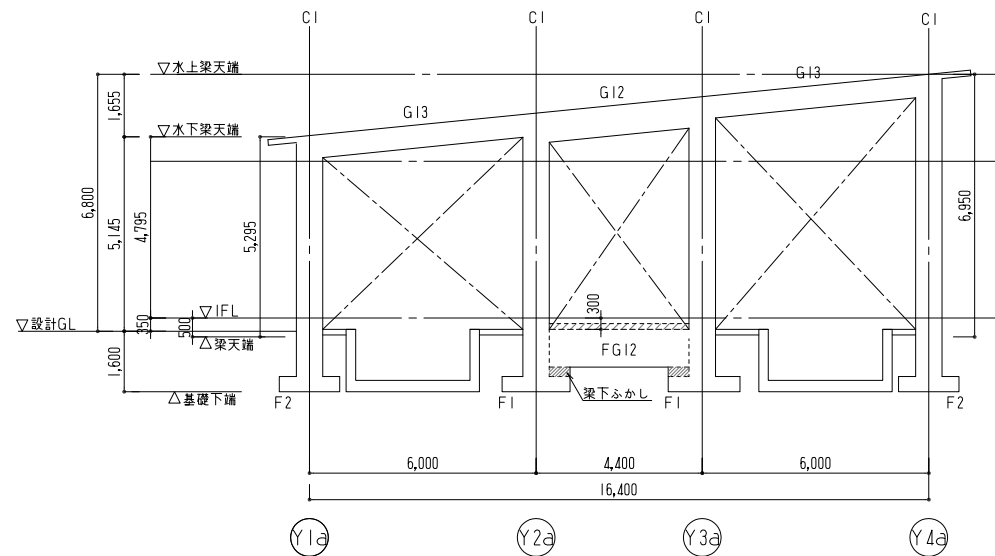


Y1a 通り軸組図 縮尺=1/100
注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W16

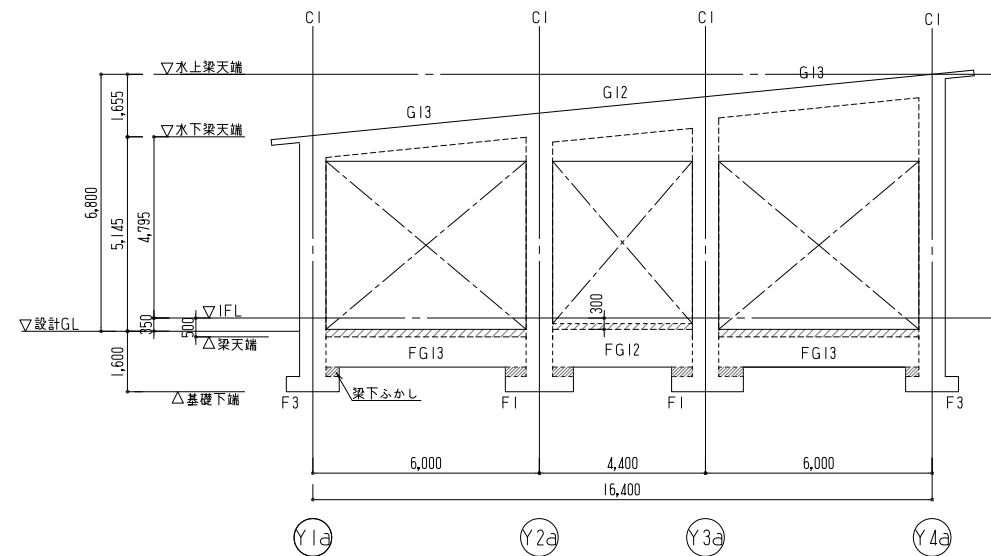


Y3a 通り軸組図 縮尺=1/100

(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-16
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
受入計量設備 軸組図 (1)	
縮 尺	1:100 (A1) 1:200 (A3)

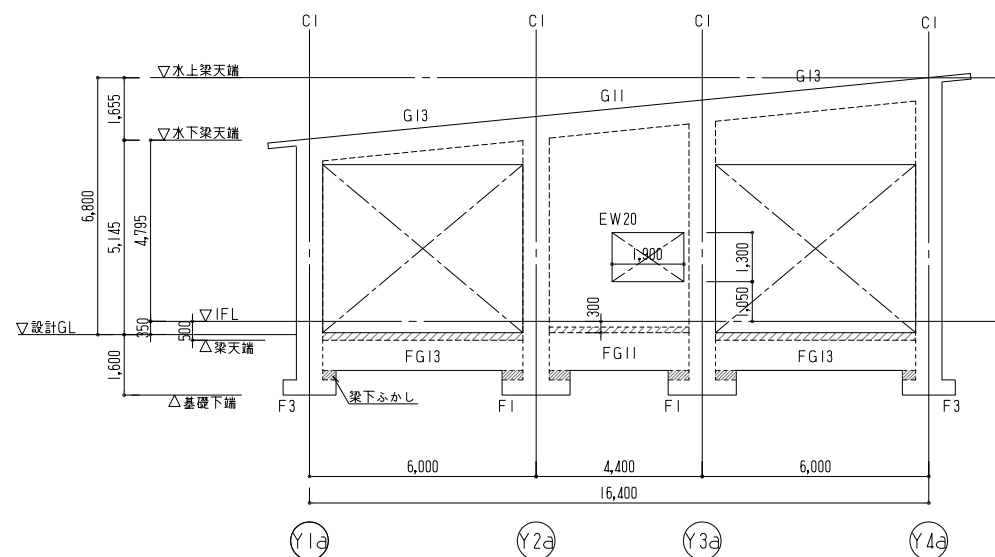


ⓧ2a 通り軸組図 縮尺=1/100



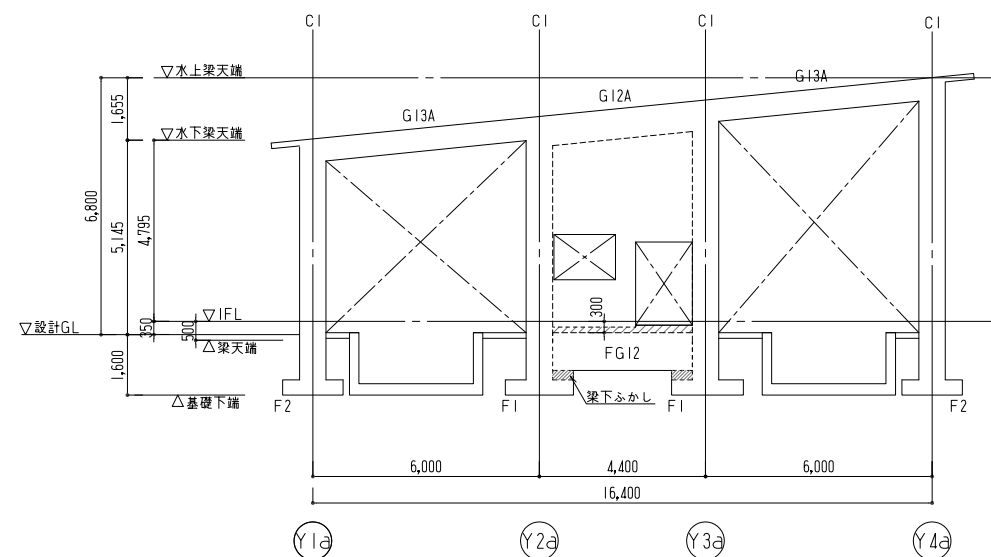
ⓧ4a 通り軸組図 縮尺=1/100

注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W16



ⓧ1a 通り軸組図 縮尺=1/100

注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W16



ⓧ3a 通り軸組図 縮尺=1/100

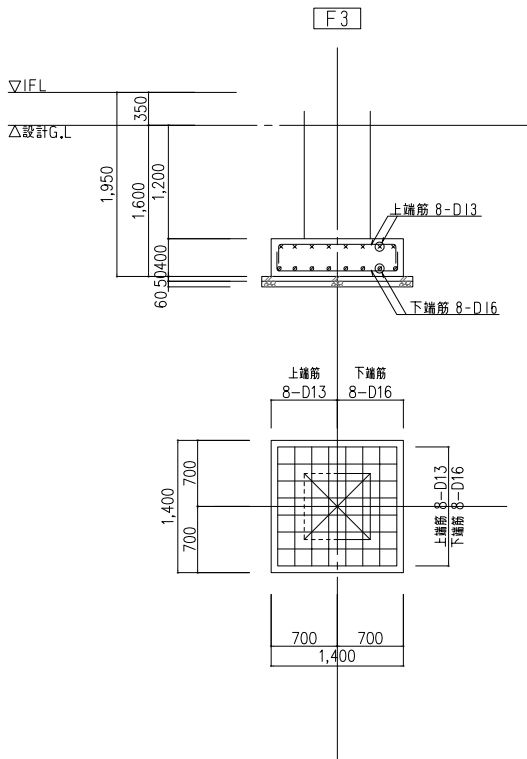
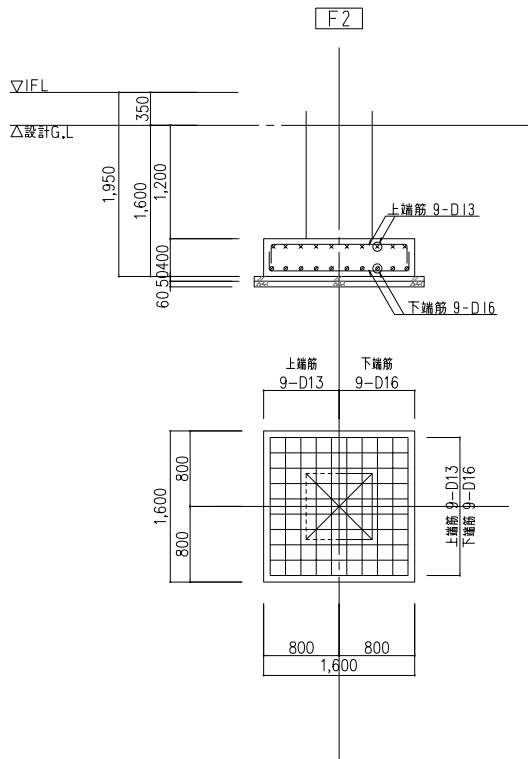
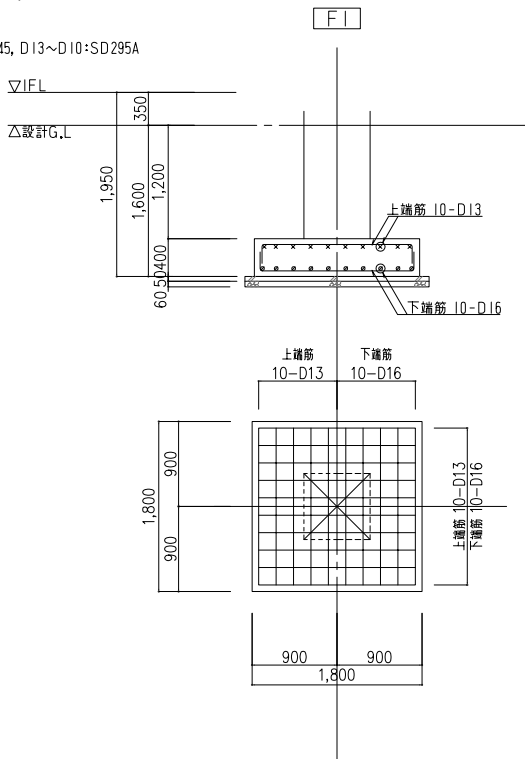
注記) 特記なき限り下記による。
1. 壁符号 W20

(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-17
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
受入計量設備 軸組図 (2)	
縮 尺	1:100 (A1) 1:200 (A3)

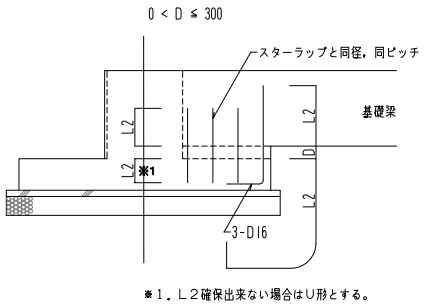
基礎リスト 縮尺：1/40

注記）特記なき限り下記による。

- Ⅰ. 使用材料
コンクリート：Fc24
鉄筋 D19以上：SD345, D13～D10:SD295A



基礎接合部の補強 S=1:40



基礎梁リスト 縮尺：1/40

注記）特記なき限り下記による。

- Ⅰ. 使用材料 コンクリート=Fc24 鉄筋=D19以上：SD345, D13～D10:SD295A

符 号	FG1	FG2	FG3	
位 置	全断面	全断面	全断面	
断 面				
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	
ST.	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	
腹 筋	4-D10	4-D10	2-D10	
備 考				
符 号	FG11	FG12	FG13	
位 置	全断面	全断面	全断面	
断 面				
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	
ST.	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	
腹 筋	4-D10	4-D10	2-D10	
備 考				

基礎小梁リスト 縮尺：1/40

注記）特記なき限り下記による。

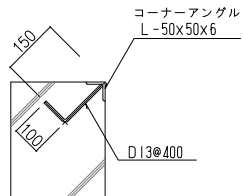
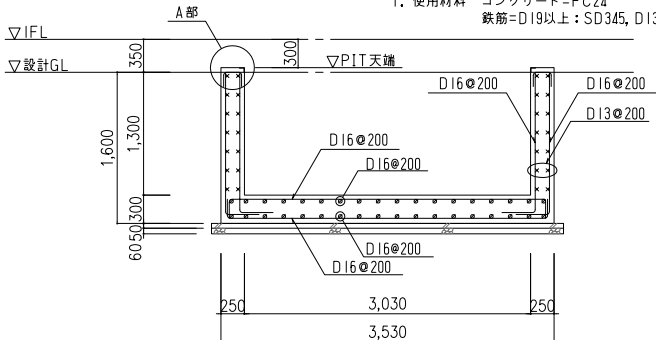
- Ⅰ. 使用材料 コンクリート=Fc24
鉄筋=D19以上：SD345, D13～D10:SD295A

符 号	FB1	
位 置	全断面	
断 面		
上端筋	4-D22	
下端筋	4-D22	
ST.	□-D13@200	
腹 筋	2-D10	
備 考		

計量器ビット配筋詳細図 S=1:40

注記）特記なき限り下記による。

- Ⅰ. 使用材料 コンクリート=Fc24
鉄筋=D19以上：SD345, D13～D10:SD295A

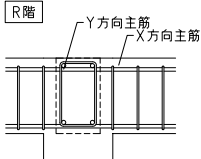


A部詳細図 縮尺：1/20

(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-18
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
受入計量設備 基礎・基礎梁リスト	
縮 尺	1:40 (A1) 1:80 (A3)

大梁断面表 縮尺：1/40 注記）特記なき限り下記による。
1. 使用材料 コンクリート=FC24 鉄筋=D19以上：SD345, D13～D10:SD295A

階	符 号	G1	G2	G3	G11	G12	G12A	G13	G13A	
	位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	Y2a端	中央・他端
R 階	断 面									
	上端筋	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	7-D22	4-D22	6-D22	4-D22
	下端筋	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
	ST.	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	▢-D13@150	□-D13@200	□-D13@200	
	腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	
	備 考									



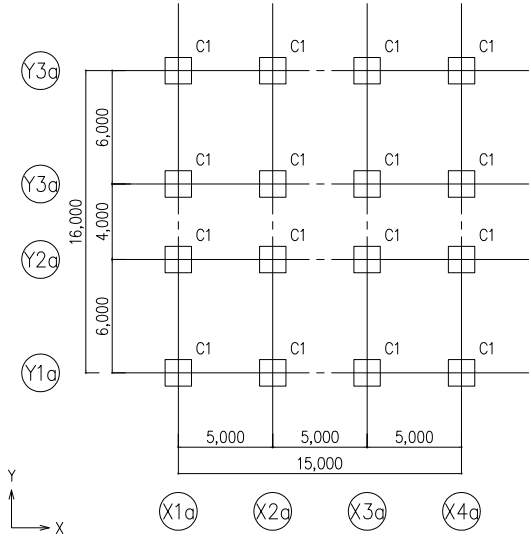
注記）特記なき限り下記による。
1. 材質は主筋:SD345, D13～D10:SD295Aとする。
2. 中止め筋D10@1,000以内とする。
3. 大梁の定着長は40dとする。
4. 大梁主筋配筋方法は上図による。

小梁断面表 縮尺=1:40 注記）特記なき限り下記による。
1. 使用材料 コンクリート=FC24 鉄筋=D19以上：SD345, D13～D10:SD295A

符 号	B1	
位 置	全断面	
断 面		
上端筋	3-D22	
下端筋	3-D22	
ST.	□-D10@200	
腹 筋	2-D10	
備 考		

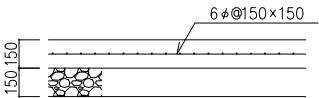
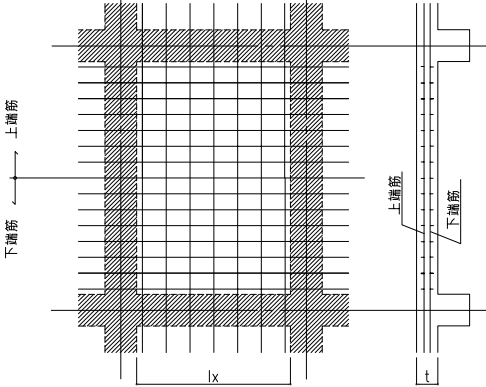
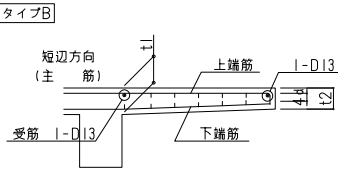
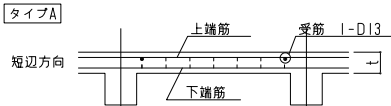
柱断面表 縮尺：1/40 注記）特記なき限り下記による。
1. 材質は主筋:SD345, D13～D10:SD295Aとする。

階	符 号	C1	
1 階	断 面		
	b × D	700 × 700	
	主 筋	I2-D22	
	帯 筋	□-D13@100	
	備 考		



スラブ断面表 注記）特記なき限り下記による。
1. CS表示は片持ちスラブを示す。

符号	タイプ	t (t1～t2)	位置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
S15	A	150	上端筋	D13@200	D10・D13@200	
			下端筋	D10・D13@200	D10@200	
S16	A	160	上端筋	D10・D13@200	D10@200	
			下端筋	D10@200	D10@200	
S20	A	200	上端筋	D13@200	D10・D13@200	
			下端筋	D10・D13@200	D10@200	
CS15	B	150	上端筋	D10・D13@200	D10@200	
			下端筋	D10@200	D10@200	

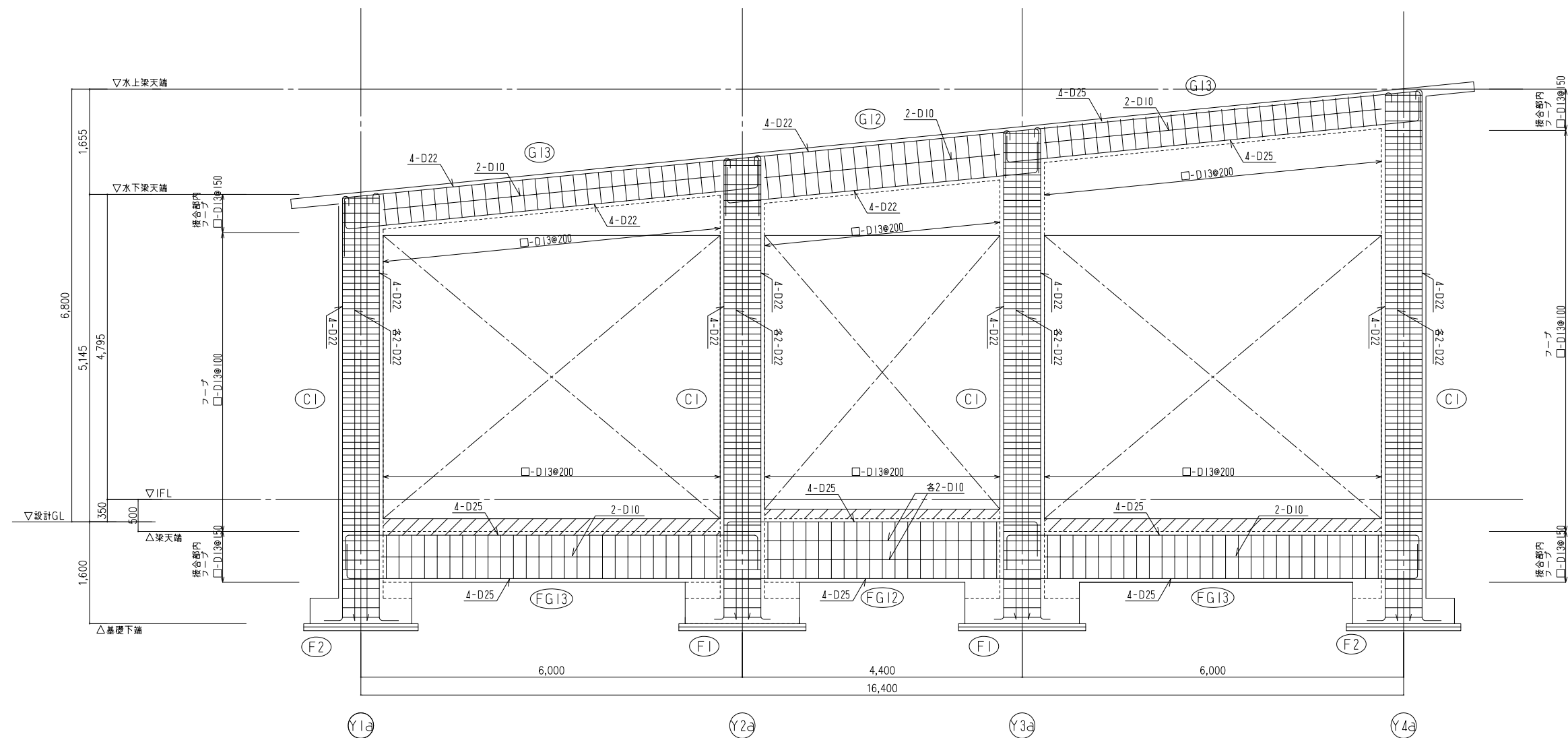


土間コンクリート配筋図 t=150

壁断面表 注記）特記なき限り下記による。
1. EW表示は耐力壁、W表示は非耐力壁を示す。
2. 開口補強縦、横筋で3本以上の場合は多段配筋とする。
3.

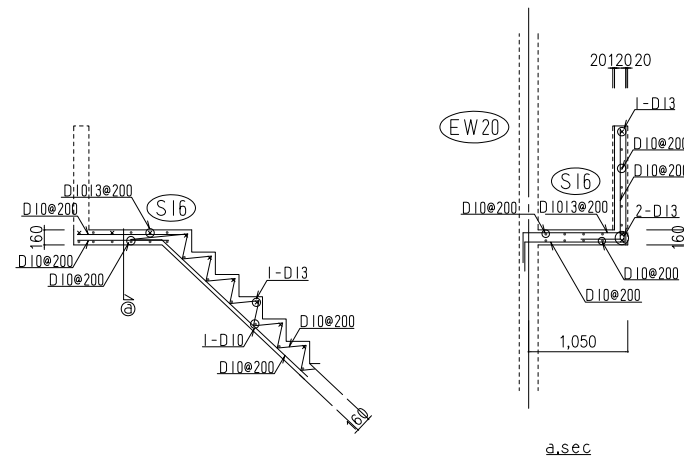
形 状					
縦断面	タイプA	タイプB	タイプC	タイプD	タイプE
	t	t	t	t	t
符 号	W16	W20	EW20		
タイプ	C	C	C		
壁厚 t	160	200	200		
縦 筋	D10@200	D13@200	D13@200		
横 筋	D10@200	D13@200	D13@200		
幅止め筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000		
開口補強筋	縦 筋	2-D13	4-D13	4-D13	
	横 筋	2-D13	4-D13	4-D13	
	斜め筋	2-D13	2-D13	2-D13	
備 考					
壁開口補強筋図					

(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-19
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
受入計量設備 柱・梁・スラブ・壁リスト	
縮 尺	1:40 (A1) 1:80 (A3)



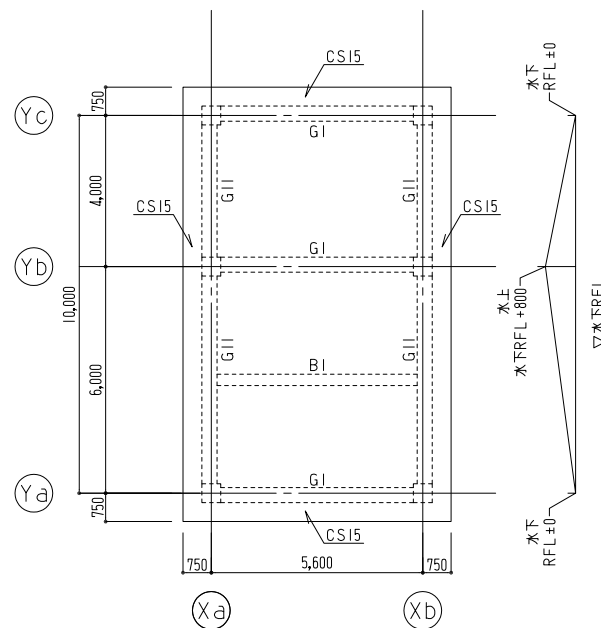
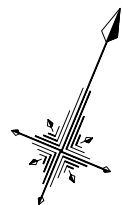
X4a 通り配筋詳細図 縮尺=1:40

注記) 特記なき限り下記による。
 1. コンクリート : FC24
 2. 鉄筋 主筋 D19以上 : SD345, D13~D10:SD295Aとする。
 3. パネルフープD13@150



階段配筋詳細図 縮尺=1:40

(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-20
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
受入計量設備 X4a通り配筋詳細図	
縮 尺	1:40 (A1) 1:80 (A3)



▽水上梁天端
▽水下梁天端
▽設計GL
△梁天端
△基礎下端

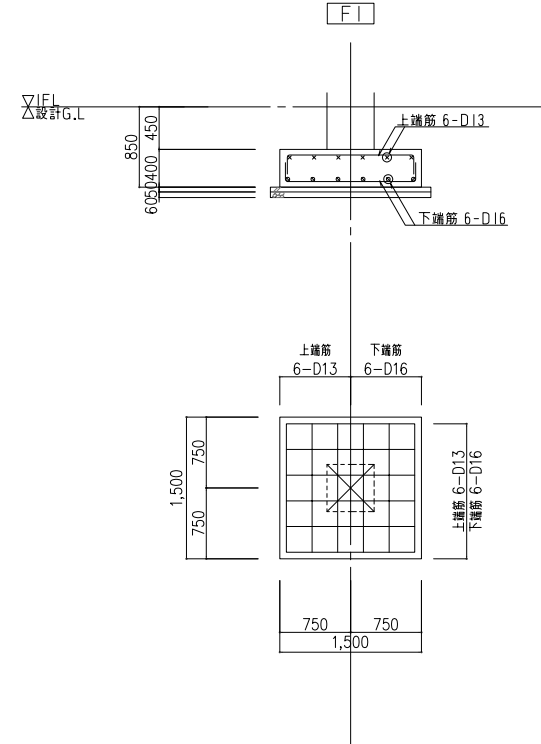
4,600
900
3,800
6,000
4,000
10,000

CI
CI
CI
GII
GII
EW18
EW18
FGII
FGII
F1
F1
F1

Ya
Yb
Yc

① Yd, Yc 通り軸組図 縮尺=1/100

注記) 特記なき限り下記による。
基礎断面リスト 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。



注記) 特記なき限り下記による。
基礎梁断面表 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。

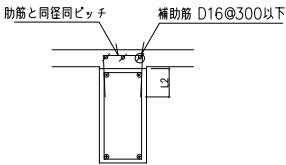
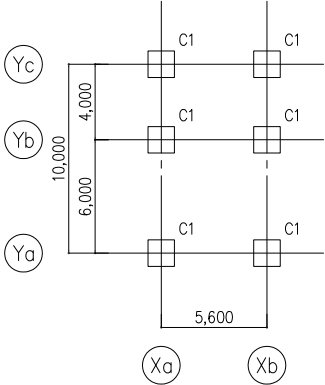
符 号	FGI	FGII	
位 置	全断面	全断面	
断面			
上端筋	4-D22	4-D22	
下端筋	4-D22	4-D22	
ST.	□-D13@200	□-D13@200	
腹 筋	2-D10	2-D10	
備 考			

注記) 特記なき限り下記による。
柱断面表 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。

階	符 号	CI	
I 階	断面		
	b x D	500 x 500	
	主 筋	12-D22	
	帯 筋	□-D13@100	
	備 考		

注記) 特記なき限り下記による。
基礎小梁断面表 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。

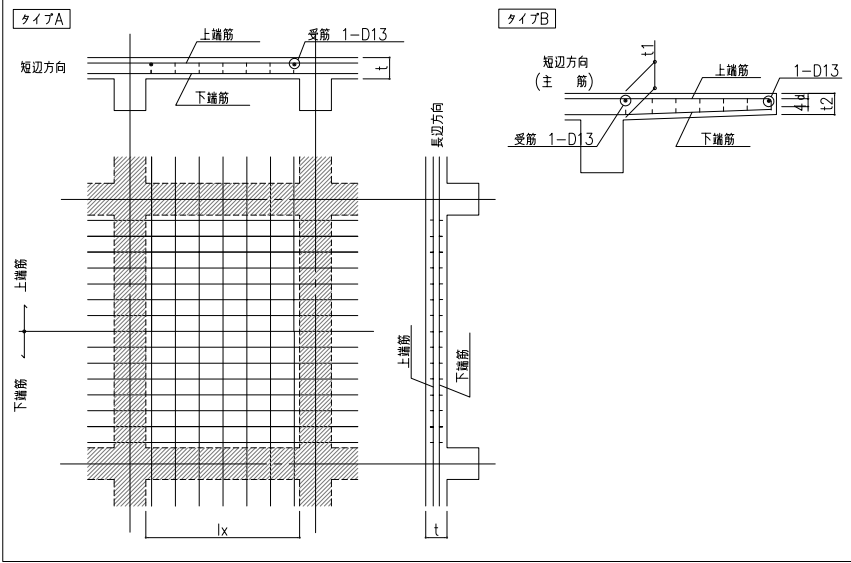
符 号	FBI	
位 置	全断面	
断面		
上端筋	3-D22	
下端筋	3-D22	
ST.	□-D13@200	
腹 筋	2-D10	
備 考		



梁上増打ち補強筋

注記) 特記なき限り下記による。
スラブ断面表 1. CS表示は片持ちスラブを示す。

符号	タイプ	t (t1~t2)	位置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
S15	A	150	上端筋 下端筋	D13@200 D10・D13@200	D10・D13@200 D10@200	
S16	A	160	上端筋 下端筋	D10・D13@200 D10・D13@200	D10・D13@200 D10@200	
CS15	B	150	上端筋 下端筋	D10・D13@200 D10@200	D10@200 D10@200	



注記) 特記なき限り下記による。
大梁断面表 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。
2.

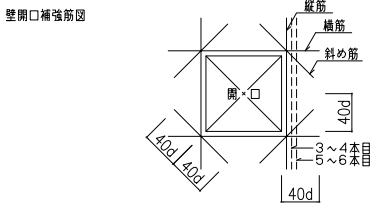
階	符 号	GI	GII	
R 階	位 置	全断面	全断面	
	断面			
	上端筋	4-D22	4-D22	
	下端筋	4-D22	4-D22	
	ST.	□-D13@200	□-D13@200	
	腹 筋	2-D10	2-D10	
	備 考			

注記) 特記なき限り下記による。
小梁断面表 1. 材質は主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。
2.

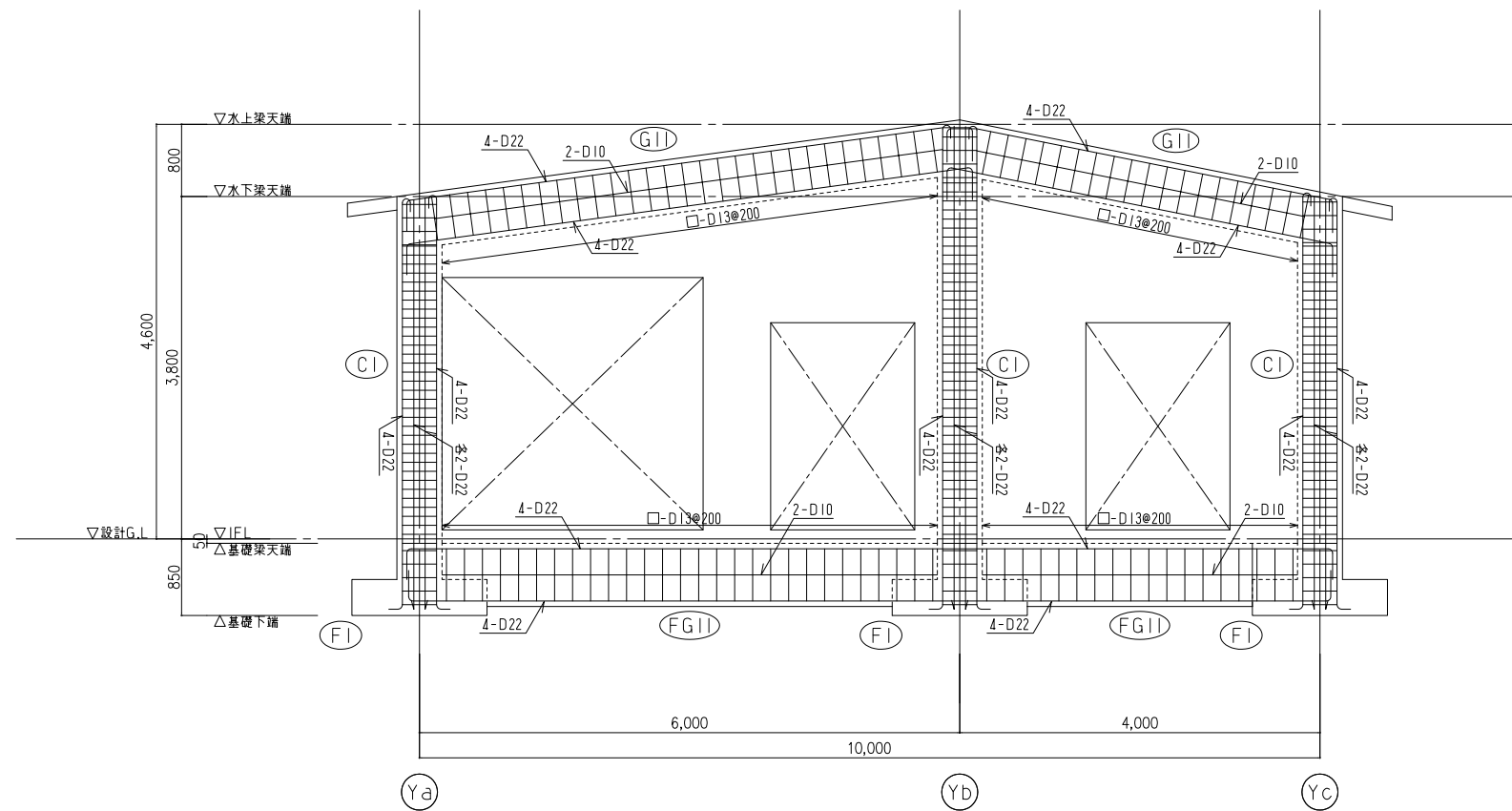
階	符 号	BI	
R 階	位 置	全断面	
	断面		
	上端筋	3-D22	
	下端筋	3-D22	
	ST.	□-D10@200	
	腹 筋	2-D10	
	備 考		

注記) 特記なき限り下記による。
壁断面表 1. EW表示は耐力壁、W表示は非耐力壁を示す。
2. 開口補強筋、横筋で3本以上の場合は多段配筋とする。

形 状	タイプA	タイプB	タイプC	タイプD	タイプE
縦断面					
符 号	W18	EW18			
タイプ	C	C			
壁厚 t	180	180			
縦 筋	D10@200	D10@200			
横 筋	D10@200	D10@200			
幅止め筋	D10@1000	D10@1000			
開口補強筋	縦 筋 2-D10 横 筋 2-D10 斜め筋 2-D10	—			
備 考					



(一財)クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-22
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
コア・資材倉庫 基礎・基礎梁・柱・スラブ・壁リスト	
縮 尺	1:40 (A1) 1:80 (A3)



(Xb) 通り配筋詳細図 注記) 特記なき限り下記による。
1. コンクリート : FC24
2. 鉄筋 主筋:SD345, D13~D10:SD295Aとする。
3. パネルフープD13@150

(一財) クリーンいわて事業団	
八幡平市平館第2地割	S-23
令和2年度	—
公共関与型産業廃棄物最終処分場 土木施設建設工事	
コア・資材倉庫	配筋詳細図
縮 尺	1:40 (A1) 1:80 (A3)